

平成26年度 地域内フィーダー系統確保維持事業一覧

都県	協議会名等	事業者名	乗合バス型 系統数	デマンド型 系統数	車両減価償却 費等車両数	
茨城	古河市公共交通活性化会議	総和中央交通(株)		1		
		三和交通(有)		1		
		諸川タクシー(有)		1		
	日立市公共交通会議	NPO法人助け合いなかさと			1	
		日立電鉄交通サービス(株)	4			
	牛久市地域公共交通会議	関東鉄道(株)	5		3	
	常総市公共交通活性化協議会	関鉄県南タクシー(株)			1	
		(有)絹西タクシー			1	
		野村タクシー(有)			1	
		松並タクシー(有)			1	
		(有)三妻タクシー			1	
		水海道ハイヤー(有)			1	
		石塚タクシー(有)			1	
	龍ヶ崎市地域公共交通会議	(有)佐貫タクシー			1	
		昭和タクシー(有)			1	
かすみがうら市地域公共交通会議	関鉄グリーンバス(株)	1				
つくばみらい市地域公共交通会議	守谷タクシー(有)			1		
	(有)常陽観光タクシー			1		
	さくら住宅(株)			1		
阿見町地域公共交通活性化協議会	(有)新町タクシー			1		
	日本貿易運輸(株)			1		
五霞町地域公共交通会議	朝日自動車(株)	3				
佐野市地域公共交通協議会	佐野市	7		1		
栃木	宇都宮市地域公共交通会議	泉タクシー(株)		4		
		アサヒタクシー(株)		1		
		(有)雀タクシー		1		
	鹿沼市地域公共交通活性化協議会	鹿沼合同タクシー(株)			6	
		平和タクシー(有)			1	
	足利市地域公共交通活性化協議会	足利タクシー(株)	1			
	栃木市地域公共交通会議	栃木交通(有)			1	
千代田タクシー(有)				2		

都県	協議会名等	事業者名	乗合バス型 系統数	デマンド型 系統数	車両減価償却 費等車両数	
栃木	栃木市地域公共交通会議	栃木合同タクシー(株)		2		
		栃南タクシー(有)		1		
		富士タクシー(有)		2		
		(有)大平タクシー		2		
		(有)都賀タクシー		2		
		(株)新交通		1		
		藤岡タクシー(株)		1		
	真岡市	大越観光バス(株)	2			
		芳南交通(株)		1		
		芳賀通運タクシー(株)		1		
		(有)二宮タクシー		1		
		潮田タクシー(株)		1		
	大田原市地域公共交通会議	大田原市	1			
	那須烏山市地域公共交通会議	山和タクシー(有)			1	
		(有)大金タクシー			1	
	さくら市地域公共交通会議	さくらタクシー(有)		1		
	小山市地域公共交通会議	(有)誠タクシー			1	
		大山タクシー(有)	3			
	日光市地域公共交通会議	(株)小山中央観光バス	3	3		
	日光市地域公共交通会議	日光線通運(株)			3	
	下野市地域公共交通会議	関東交通(株)			3	
茂木町地域公共交通会議	茂木合同タクシー(株)			2		
市貝町地域公共交通会議	(株)柏タクシー			2		
	茂木合同タクシー(株)・(株)柏タクシー			1		
益子町地域公共交通会議	益子タクシー(有)			1		
	新光タクシー(有)			1		
	七井タクシー			1		
壬生町地域公共交通会議	野口タクシー(有)			1		
	みどり交通(有)			1		
	壬生観光自動車(有)			1		
	壬生タクシー(有)			1		
上三川町地域公共交通会議	関東交通(株)			1		

平成26年度 地域内フィーダー系統確保維持事業一覧

都県	協議会名等	事業者名	乗合バス型 系統数	デマンド型 系統数	車両減価償却 費等車両数
栃木	野木町公共交通活性化会議	小山合同タクシー(株)		1	
		(有)野木タクシー		1	
	那須町地域公共交通活性化協議会	那須合同自動車(株)		2	
群馬	桐生市地域公共交通会議	(株)沼田屋タクシー		1	
	甘楽町地域公共交通会議	(有)昭和タクシー		1	
埼玉	熊谷市	国際十王交通(株)	1		1
	加須市地域公共交通会議	朝日自動車(株)	1		
		加須タクシー(株)		2	
		騎西タクシー(有)		1	
	本庄市交通政策協議会	本庄観光(株)	1		
		朝日自動車(株)		4	
	鳩山町地域公共交通会議	(株)越生タクシー 川越観光自動車(株)		1	
	ときがわ町公共交通活性化協議会	イーグルバス(株)		2	
	小鹿野町公共交通会議	秩父丸通タクシー(株)		1	
	寄居町地域公共交通活性化協議会	(株)桜交通		1	
大信観光花園(有) (有)本間タクシー			1		
千葉	茂原市	都自動車(株)		1	
		小湊鐵道(株)	2		
	いすみ市地域公共交通活性化協議会	小湊鐵道(株)	6		
		(株)HMC東京	7		
	旭市地域公共交通会議	千葉交通(株)	6		
	山武市地域公共交通活性化協議会	ちばフラワーバス(株)	1		
		房総自動車(有)		3	
		両総観光(株)		2	
		(有)松尾タクシー		2	
	香取市地域公共交通協議会	千葉交通(株)	2		
(株)千葉交タクシー			1		
市原市地域公共交通活性化協議会	小湊鐵道(株)	5			
君津市地域公共交通会議	大新東(株)		2		
印西市地域公共交通活性化協議会	ちばレインボーバス(株)	1			

都県	協議会名等	事業者名	乗合バス型 系統数	デマンド型 系統数	車両減価償却 費等車両数
千葉	東金市地域公共交通会議	東金タクシー(有)		1	
		南総タクシー(有)		1	
		関口タクシー(有)		1	
		小川タクシー(有)		1	
長南町地域公共交通活性化協議会	(有)長南タクシー			1	
	ゆたか自動車(株)			1	
大網白里市地域公共交通活性化協議会	小湊鐵道(株)	2			
東京	檜原村地域公共交通活性化協議会	大谷商事(有)	1		
		(有)横川交通		1	
神奈川	秦野市地域公共交通会議	(株)愛鶴	6		
	中井町地域公共交通会議	(株)湘南神奈交バス		1	
山梨	都留市地域公共交通活性化協議会	富士急山梨バス(株)	1		
	中央市地域公共交通活性化協議会	富士急山梨ハイヤー(株)		2	
		山交タウンコーチ(株)	1		
	笛吹市地域公共交通会議	山梨第一交通(株)		1	
		日之出観光自動車(株)		1	
	上野原市地域公共交通活性化協議会	(有)島田交通		2	
		上野原タクシー(株)		1	
		(有)四方津交通		1	
	甲州市地域公共交通会議	(有)駅前タクシー		1	
		甲州タクシー(株)		1	
富士川町地域公共交通活性化協議会	塩山タクシー(株)		1		
	(有)青柳タクシー	1	1		
	(有)豊栄タクシー	1	1		
身延町地域公共交通活性化協議会	(有)鵜沢タクシー		1		
	山交タウンコーチ(株)		2		
	(株)身延タクシー		1		
	(有)中富タクシー		1		

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名: 古河市公共交通活性化会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
・総和中央交通株式会社 ・三和交通有限会社 ・諸川タクシー有限会社	総和地区、三和地区	市内の医療機関の休診日の多い木曜日の利用者が伸びないという結果から、買い物等の利用者を増やすため平成26年4月1日より車内へのシルバーカーの持込みを可能とした。	A	1日当たりの平均利用者数の目標値に達してはいるが、事業は概ね適切に実施された。	B 1日当たりの平均利用者数目標125人/日に対して、118.4人/日であった。目標を下回った理由としては、大雪の影響で1月の利用者が大幅に減ったことと、医療機関の休診日の多い木曜日の利用者が伸びないことがあげられる。	平成26年4月1日より開始したシルバーカーの車内への持込みについて広報等により再度周知し、買い物目的の利用者の増を図っていく。また、昨年度導入した運行ルート of 自動生成が可能な予約システムの検証を行い、運行効率のアップにつなげたい。



日立電鉄交通サービス(株)	日立駅中央口～ケーズデンキ～平和台霊園線	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、地域住民、交通事業者とパートナーシップ協定を締結して乗車促進活動の取り組みをおこなった。</li> <li>・乗車促進活動を行う地域の団体に対し、活動助成金を交付し、継続的な支援をおこなった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画どおり事業は適切に実施された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度までに公共交通利用者数105%(対平成22年度比)を目指すという目標に対して、85.3%、110,833人の利用であった。(対前年度91.5%)</li> <li>・人口減少や高齢化の進展により、路線バス利用者が減少している。</li> <li>・事業者は、経営改善の一環として利用者の少ない土日祝日の減便を行った。(1便当たりの利用者数対前年度比107.8%(H25:11.7人/便、H26:12.6人/便))</li> <li>・市内南北軸路線を確保し、公共交通体系の構築が図られたことにより、幹線に接続できる交通手段の確保ができた。</li> </ul> <p>※ 休日:42便 → 21便</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利便性の高い市内南北軸路線を維持するため、住民主体で市内公共交通の利用促進に、今後も引き続き取り組んでいく。</li> <li>・交通事業者とパートナーシップ協定を締結して乗車促進活動を行う地域の団体に対し、活動助成金を交付するなどし、継続的に支援していく。</li> <li>・地域公共交通網形成計画を策定し、需要に合った基準を定めていく。</li> <li>・地区の秋祭りで、バスの乗り方説明やチラシ配布など、バス利用促進をおこなった。</li> </ul>
日立電鉄交通サービス(株)	(BRT) おさかなセンター～サンピア日立～大甕駅前	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民、沿線企業及び交通事業者等関係団体で組織するBRTサポーターズクラブと連携して乗車促進活動の取り組みをおこなった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画どおり事業は適切に実施された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日当たりの利用者数158.5人で対前年度比183.9%であった。</li> <li>・年度途中で、JRの列車との接続を考慮したダイヤに変更するとともに沿線施設等との連携を図り地域の活性化に繋げるため、震災の影響で閉鎖されていた施設のリニューアルオープンに合わせ、下記「久慈浜」経由便を振り替えた。</li> <li>・市内南北軸路線を確保し、公共交通体系の構築が図られたことにより、幹線に接続できる交通手段の確保ができた。</li> </ul> <p>※ 1便当たりの利用者数比較 104.1%(H25:4.9人/便、H26:5.1人/便) ※ 平日:16便→42便、休日:21便→42便</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利便性の高い市内南北軸路線を維持するため、バス専用道の定時制、速達性のメリットPRしながら、引き続き、地域住民、沿線企業及び交通事業者等関係団体で組織するBRTサポーターズクラブと連携し利用促進を図る。また、バスの起終点となっている「日立おさかなセンター」が、平成26年9月21日から道の駅として供用開始され、さらなる利用促進につなげていく。</li> </ul>

<p>日立電鉄交通サービス(株)</p>	<p>(BRT) おさかなセンター～久慈浜～大甕駅前</p>	<p>・地域住民、沿線企業及び交通事業者等関係団体で組織するBRTサポーターズクラブと連携して乗車促進活動の取り組みをおこなった。</p>	<p>A</p>	<p>・計画どおり事業は適切に実施された。</p>	<p>C</p> <p>・1日当たりの利用者数224.5人で対前年度比76.3%であった。          ・年度途中で、JRの列車との接続を考慮したダイヤに変更するとともに沿線施設等との連携を図り地域の活性化に繋げるため、震災の影響で閉鎖されていた施設のリニューアルオープンに合わせ、上記「サンピア日立」経由便に振り替えた。          ・市内南北軸路線を確保し、公共交通体系の構築が図られたことにより、幹線に接続できる交通手段の確保ができた。</p> <p>※ BRT2路線の1日当たり利用者比較 100.7%(H25:380.4人/日、H26:383.0人/日)          ※ 1便当たりの利用者数比較 112.5%(H25:6.4人/便、H26:7.2人/便)          ※ 平日:56便→24便、休日:27便→8便</p>	<p>・利便性の高い市内南北軸路線を維持するため、バス専用道の定時制、速達性のメリットPRしながら、引き続き、地域住民、沿線企業及び交通事業者等関係団体で組織するBRTサポーターズクラブと連携し利用促進を図る。また、バスの起終点となっている「日立おさかなセンター」が、平成26年9月21日から道の駅として供用開始され、さらなる利用促進につなげていく。</p>
----------------------	------------------------------------	---	----------	---------------------------	--	---



# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名: 常総市公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
関鉄県南タクシー(株)	デマンド交通(常総市内全域)	<p>効果的な利用促進策の実施については、デマンド交通の利用方法等を記載したチラシを全戸配布及び公共施設に配置し、高齢者担当課の協力を得て、介護予防教室への出張概要説明・登録手続きを行った。費用対効果改善に向けた検討については、引き続き利用料金の適正化に努めていく。</p> <p>データ収集については、平成25年度末から平成26年度はじめにかけて利用者アンケートを実施し、予約センターのオペレーターによるお断り件数の把握、予約システムから時間帯別着信数、利用場所ランキング等の取得を継続的に行っている。学識経験者との協力体制については、当市の公共交通活性化協議会の委員長を筑波大学の教授に就任していただいている。教授のご専門が交通に関する分野ということもあり、当市からデマンド交通に係る運行データ等を提供し、共同研究を行っており、現在の運行方法等の評価を行っている。その成果として、平成24年度に取りまとめた共同研究報告書が、公益財団法人日本都市センターが主催する都市調査研究グランプリにおいて、最優秀賞を受賞した。</p>	<p>A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>B 目標である1日平均利用者数103人に対し、98人(対前年比4%減)の利用があり、目標を下回る結果となった。</p> <p>その理由として、平成24年度に実施した高齢者外出支援事業による70歳以上の利用者の利用料金の割引制度が終了したことによる影響が大きいと考えられる。</p> <p>また、タクシー事業者との協議の中では、消費税増税による買い控えのため、外出や買い物等がこれまでよりも減っているのではないかという意見があった。</p> <p>こういった状況から、運行当初に発行して以来発行していなかったデマンド交通の利用方法等を記載したチラシを全戸配布及び公共施設に配置し、再度デマンド交通の周知を行った。その効果もあり、登録者数はチラシ配布後には配布前よりも多くの方に登録をしていただいた。</p>	<p>利用料金の割引等を行わない限り、平均利用者数に大きな変化はないと予測され、費用対効果を考えると安易に割引等をするのは難しいため、来年度、制度の周知による登録者の増加と利用者数の維持を目的として、包括連携協定を結んでいる筑波大学と協働で、デマンド交通に親しみやすくなるようなロゴ等を作成し、車両にはマグネットを取りつけ、チケット販売箇所へのぼり旗等を掲揚して周知を図ることを検討している。</p> <p>あわせて、他の公共交通の利用促進によるデマンド交通利用の相乗効果を目指して、公共交通マップ等の作成を予定している。</p>
(有)絹西タクシー					
野村タクシー(有)					
松並タクシー(有)					
(有)三妻タクシー					
水海道ハイヤー(有)					
石塚タクシー(有)					



# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名: 龍ヶ崎市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域公共交通確保維持改善事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者名: (有)佐貫タクシー	運行系統名: 龍ヶ崎市乗合タクシー 龍ヶ崎市内全域	制度の周知及び利用促進を図った。また、利用者及び未利用者のニーズの把握に努めた。	A 事業が計画に位置付けられたとおり適切に実施された。	A 乗合タクシーの運行により公共交通空白地域が解消され、高齢者や交通弱者の移動手段を確保できた。	制度の周知及び利用促進を図る。
事業者名: 昭和タクシー(有)	運行系統名: 龍ヶ崎市乗合タクシー 龍ヶ崎市内全域	制度の周知及び利用促進を図った。また、利用者及び未利用者のニーズの把握に努めた。	A 事業が計画に位置付けられたとおり適切に実施された。	A 乗合タクシーの運行により公共交通空白地域が解消され、高齢者や交通弱者の移動手段を確保できた。	制度の周知及び利用促進を図る。



## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通ネットワーク計画に基づく事業）

協議会名： つくばみらい市地域公共交通会議

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持事業

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
守谷タクシー 有限会社 有限会社 常陽観光タク シー さくら住宅 株式会社	つくばみらい市内全域	平成26年4月からの運行のため、前回の事業評価はなし。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標である1日平均利用者数22人に対し、11.4人の利用があり、目標を下回った。	運行開始が平成26年4月からのため、周知を行ったが、利用者増には繋がらなかった。市の地域公共交通全体の見直しの中で、利用者の利便性の向上を図りながら、利用促進策を行っていく。

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名：阿見町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点
<p>事業者名: 日本貿易運輸(株) (有)新町タクシー</p>	<p>陸上交通に係る 地域公共交通確保維持事業 (地域内フィーダー系統) 区間:阿見町全域及びJR荒川沖駅東口付近</p>	<p>・新町内の規模の大きい病院や商業施設、公共施設に利用登録申請書と利用ガイドを配布し、利用登録の増進に努めた。 ・過去の運行ログの解析により、効率の良い予約システムにするための検討を進めている。</p>	<p>・登録者数、月当たりの平均利用者数共に増加し、公共交通不便地域の移動手段の確保につながっている。 A:・デマンドタクシーについては、アンケートの集計結果や運行記録の解析によって、予約システムや運行体制の改善に努め、継続していく。</p>	<p>・目標である月当たり平均利用者数770人に対し、887人(対前年比110%)となっている。 A:・安全確保のため、余裕を持った運行体制とした。</p>	<p>・今までに利用登録した住民に対し、再度「あみまるくん」に関する通知を発送することで周知を図る。 ・乗合率が上昇するように予約システムや運行体制の改善を図る。</p>

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名: 五霞町地域公共交通会議

評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
朝日自動車株式会社	○フィーダー系統 五霞町コミュニティ交通 (路線定期運行)	平成25年10月2日から試験 運行開始のため無し	A	計画通り事業は適切に実施 された。	A 通勤・通学者の利便性の向上及び高齢者の日中の買い物利便性の向上を目標としていたが、数値的な目標は設定しなかった。全大字を通るルートを設定することにより、各大字の利用状況等を確認できたことから、翌年度以降のルート・ダイヤの改正に繋げていくことが出来ると考える。	1年目(平成25年10月～26年9月末)の大字別・バス停別・時間帯別のデータを基にルート・ダイヤの改正を行う ※平成26年10月～ルート・ダイヤを改正し実証運行を継続しています。

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名: 佐野市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
佐野市	【基幹線】 葛の里吉番館～佐野新都市バスターミナル	利用状況調査の結果や期待される数値を踏まえて目標を設定した。また利用促進を図るための取組みを継続して行った。	A 事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	C ①平均乗車密度 【目標】2.0⇒【実績】1.78 ②平均乗車人数/便 【目標】8.5人⇒【実績】7.7人 ③収支率 【目標】50%⇒【実績】44.1%  利用客が固定されてきた結果、期待される目標値には届かなかった。	基幹線と各支線及び鉄道との乗り継ぎ利便性を向上させ、相乗効果を図る。
佐野市	【秋山線】 木浦原～市営バス車庫前	利用状況調査の結果や期待される数値を踏まえて目標を設定した。また利用促進を図るための取組みを継続して行った。	A 事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	C ①平均乗車密度 【目標】1.0⇒【実績】0.84 ②平均乗車人数/便 【目標】3.3人⇒【実績】3.0人 ③収支率 【目標】25%⇒【実績】20.5%  利用者は微増傾向にあるが、期待される目標値には届かなかった。	利用者の中心が地元住民となっていることから、地元住民に対する広報活動に努め、利用者の増加を図る。
佐野市	【仙波会沢線】 大釜～会沢小室	利用状況調査の結果や期待される数値を踏まえて目標を設定した。また利用促進を図るための取組みを継続して行った。	A 事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	C ①平均乗車密度 【目標】1.0⇒【実績】0.65 ②平均乗車人数/便 【目標】4.0人⇒【実績】2.3人 ③収支率 【目標】20%⇒【実績】19.6%  利用客が固定されてきた結果、期待される目標値には届かなかった。	利用者の中心が地元住民となっていることから、地元住民に対する広報活動に努め、利用者の増加を図る。

佐野市	【野上線】 蓬山ロビジレッジ～田沼庁舎	利用状況調査の結果や期待される数値を踏まえて目標を設定した。また利用促進を図るための取組みを継続して行った。	A	事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	C	①平均乗車密度 【目標】1.0⇒【実績】0.49 ②平均乗車人数／便 【目標】4.0人⇒【実績】2.2人 ③収支率 【目標】20%⇒【実績】10.7%  利用者が固定されてきた結果、期待される目標値には届かなかった。	利用者の中心が地元住民となっていることから、地元住民に対する広報活動に努め、利用者の増加を図る。
佐野市	【飛駒線】 寺沢入口～田沼庁舎	利用状況調査の結果や期待される数値を踏まえて目標を設定した。また利用促進を図るための取組みを継続して行った。	A	事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	C	①平均乗車密度 【目標】1.0⇒【実績】0.76 ②平均乗車人数／便 【目標】3.5人⇒【実績】2.8人 ③収支率 【目標】20%⇒【実績】12.9%  利用者が固定されてきた結果、期待される目標値には届かなかった。	利用者の中心が地元住民となっていることから、地元住民に対する広報活動に努め、利用者の増加を図る。
佐野市	【名水赤見線】 佐野駅～赤見地区～佐野駅	利用状況調査の結果や期待される数値を踏まえて目標を設定した。また利用促進を図るための取組みを継続して行った。	A	事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	B	①平均乗車密度 【目標】1.5⇒【実績】1.33 ②平均乗車人数／便 【目標】5.0人⇒【実績】6.1人 ③収支率 【目標】35%⇒【実績】33.7%	地域住民を対象とした説明会を開催し、利用客の需要に合わせたダイヤや経路の見直しを行った結果、沿線の高校に通学する利用客を順調に取り込む事が出来ているが、更なる利便性の向上を図る。
佐野市	【犬伏線】 佐野新都市バスターミナル～高砂駐車場	住民アンケートの結果や期待される数値を踏まえて目標を設定した。	A	事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	C	①平均乗車密度 【目標】1.0⇒【実績】0.29 ②平均乗車人数／便 【目標】4.0人⇒【実績】1.1人 ③収支率 【目標】20%⇒【実績】7.3%  地元住民への周知不足もあり、低調な利用状況が続いている。	地元住民への広報活動に努めるとともに、バス停別利用状況や利用者からの意見を踏まえ、利便性の向上を図る。

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名: 宇都宮市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者名: 泉タクシー(株)	区域運行: 国本地区(全域)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ニーズ調査等に基づく接続施設の充実や、利用人数に対応した配車体制の構築による利便性の向上を図った。</li> </ul>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画に位置づけられた事業は適切に実施された。</li> </ul>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標である1回あたりの平均乗車人数 2.0人/回に対し、2.3人であった。</li> <li>・医療機関や商業施設など幅広く利用されている。また、路線バス停留所への接続利用も見られ、広域的な移動需要への対応も図っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、既存の公共交通との適切な役割分担のもと、地域ニーズを運行計画へ反映させることで、更なる利便性の向上を図っていく。</li> </ul>
事業者名: 泉タクシー(株)	区域運行: 篠井地区(全域)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PR活動による潜在需要の掘り起こしなど利用の促進を図った。</li> </ul>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画に位置づけられた事業は適切に実施された。</li> </ul>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標である1回あたりの平均乗車人数 2.0人/回に対し、1.8人であった。</li> <li>・医療機関や商業施設など幅広く利用されている。また、鉄道駅への接続利用も見られ、広域的な移動需要への対応も図っている。</li> <li>・時間帯によっては、低密度の輸送が見られる状況であり、地域ニーズを踏まえた運行計画の改善・見直しなどによる利便性向上策について検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PR活動に取り組むことで利用の促進を図っていく。</li> <li>・地域ニーズ調査等に基づく接続施設の充実や路線バスとの接続強化などに取り組むことで、利便性の向上を図っていく。</li> <li>・利用が少ない時間帯について、隣接地区との共同運行とすることで、運行コストの抑制を図るなど、運行計画の改善・見直しについても検討していく。</li> </ul>



事業者名: 泉タクシー(株)	区域運行: 富屋地区(全域)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ニーズ調査等に基づく接続施設の充実や路線バスとの接続強化などによる利便性の向上を図った。</li> <li>・PR活動による潜在需要の掘り起こしなど利用の促進を図った。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画に位置づけられた事業は適切に実施された。</li> </ul>	B <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標である1回あたりの平均乗車人数 2.0人/回に対し、1.7人であった。</li> <li>・医療機関や商業施設など幅広く利用されている。</li> <li>・時間帯によっては、低密度の輸送が見られる状況であり、地域ニーズを踏まえた運行計画の改善・見直しなどによる利便性向上策について検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで以上に、PR活動に取り組むことで利用の促進を図っていく。</li> <li>・地域ニーズ調査等に基づく接続施設の充実や路線バスとの乗継抵抗の緩和などに取り組むことで、利便性の向上を図っていく。</li> <li>・利用が少ない時間帯について、隣接地区との共同運行とすることで、運行コストの抑制を図るなど、運行計画の改善・見直しについても検討していく。</li> </ul>
事業者名: 泉タクシー(株)	区域運行: 上河内地区(全域)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PR活動による利用の促進や、路線バスとの接続強化並びに乗継抵抗緩和策による利便性の向上を図った。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画に位置づけられた事業は適切に実施された。</li> </ul>	B <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標である1回あたりの平均乗車人数 2.0人/回に対し、1.8人であった。</li> <li>・公共施設や医療機関など幅広く利用されている。また、鉄道駅への接続利用も見られ、広域的な移動需要への対応も図っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PR活動に取り組むことで利用の促進を図っていく。</li> <li>・利用実態を踏まえた配車体制の効率化による運行コストの抑制を図るなど、運行計画の改善・見直しについて検討していく。</li> </ul>
事業者名: アサヒタクシー(株)	区域運行: 横川地区(全域)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ニーズ調査等に基づく接続施設の充実や、鉄道駅・路線バスとの接続強化などによる利便性の向上を図った。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画に位置づけられた事業は適切に実施された。</li> </ul>	A <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標である1回あたりの平均乗車人数 2.0人/回に対し、2.1人であった。</li> <li>・医療機関や商業施設など幅広く利用されている。また、路線バスや鉄道駅への接続利用も見られ、広域的な移動需要への対応も図っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PR活動に取り組むことで利用の促進を図っていく。</li> <li>・引き続き、既存の公共交通との適切な役割分担のもと、地域ニーズを運行計画へ反映させることで、更なる利便性の向上を図っていく。</li> </ul>
事業者名: (有)雀タクシー	区域運行: 雀宮地区(一部)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PR活動などによる利用の促進を図った。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画に位置づけられた事業は適切に実施された。</li> </ul>	B <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標である1回あたりの平均乗車人数 2.0人/回に対し、1.4人であった。</li> <li>・医療機関や商業施設など幅広く利用されている。また、鉄道駅への接続利用も見られ、広域的な移動需要への対応も図っている。</li> <li>・時間帯によっては低密度の輸送が見られる状況であり、地域ニーズを踏まえた運行計画の改善・見直しなどによる利便性向上策について検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで以上に、PR活動に取り組むことで利用の促進を図っていく。</li> <li>・地域ニーズ調査等に基づく導入区域の地区全域への拡大や、接続施設の充実などの運行計画の改善・見直しについて検討していく。</li> </ul>

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名:鹿沼市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
平和タクシー(有) 板荷・菊沢地区デマンド	板荷・菊沢地区内 区域運行 運行開始 平成22年11月	・目標値の見直しの提言があったが、デマンド利用者は増加傾向にあり、また、運転手の目標として定着していることから、1日1台あたりの利用人数を24人として変えることなく実施した。  ・また、毎月、基礎的データをまとめ、運転手会議においても情報共有を行うとともに、再編のための検討資料とした。	A:計画通り事業は適切に実施されている。	目標 24人/日・台  平成25年度 16.4人/日・台  平成26年度 18.0人/日・台  B:1日におけるデマンドバス1台あたりの利用者数は、1.6人伸びている。  着実に市民の生活の足として浸透してきていることが伺える。	今後も、効率的な運行を継続するとともに、様々な機会を通じてPRに努め、地域住民のバス利用促進を図る。
鹿沼合同タクシー(株) 粟野地域デマンド  粟野、粕尾、永野、清州	粟野地域内 区域運行  平成24年4月から粟野地区、粕尾地区、永野地区、清州地区の各デマンドを一元化した。	・目標値の見直しの提言があったが、デマンド利用者は増加傾向にあり、また、運転手の目標として定着していることから、1日1台あたりの利用人数を24人として変えることなく実施した。  ・また、毎月、基礎的データをまとめ、運転手会議においても情報共有を行うとともに、再編のための検討資料とした。	A:計画通り事業は適切に実施されている。	目標 24人/日・台  平成25年度 15.2人/日・台  平成26年度 15.8人/日・台  B:1日におけるデマンドバス1台あたりの利用者数は、0.6人伸びている。  徐々に市民の生活の足として浸透してきていることが伺える。	今後も、効率的な運行を継続するとともに、様々な機会を通じてPRに努め、地域住民のバス利用促進を図る。

<p>鹿沼合同タクシー(株) 北押原・南押原・北犬飼 地区デマンド</p>	<p>北押原・南押原・北犬飼地 区内 区域運行  運行開始 平成22年11月</p>	<p>・目標値の見直しの提言があつたが、デマンド利用者は増加傾向にあり、また、運転手の目標として定着していることから、1日1台あたりの利用人数を24人として変えることなく実施した。</p> <p>・また、毎月、基礎的データをまとめ、運転手会議においても情報共有を行うとともに、再編のための検討資料とした。</p>	<p>A 計画通り事業は適切に実施されている。</p>	<p>目標 24人/日・台 平成25年度 18.1人/日・台 平成26年度 18.9人/日・台</p> <p>B 1日におけるデマンドバス1台あたりの利用者数は、0.8人伸びている。</p> <p>徐々に市民の生活の足として浸透してきていることが伺える。</p>	<p>今後も、効率的な運行を継続するとともに、様々な機会を通じてPRに努め、地域住民のバス利用促進を図る。</p>
<p>鹿沼合同タクシー(株) 松原地区等デマンド</p>	<p>松原等地区内 区域運行  運行開始 平成23年11月</p>	<p>・目標値の見直しの提言があつたが、デマンド利用者は増加傾向にあり、また、運転手の目標として定着していることから、1日1台あたりの利用人数を24人として変えることなく実施した。</p> <p>・また、毎月、基礎的データをまとめ、運転手会議においても情報共有を行うとともに、再編のための検討資料とした。</p>	<p>A 計画通り事業は適切に実施されている。</p>	<p>目標 24人/日・台 平成25年度 13.4人/日・台 平成26年度 14.0人/日・台</p> <p>B 1日におけるデマンドバス1台あたりの利用者数は、0.6人伸びている。</p> <p>徐々に市民の生活の足として浸透してきていることが伺える。</p>	<p>今後も、効率的な運行を継続するとともに、様々な機会を通じてPRに努め、地域住民のバス利用促進を図る。</p>

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名: 足利市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>事業者名: 足利タクシー(株) 運行系統名: 名草線</p>	<p>入名草～足利赤十字病院</p>	<p>利用実績データ等に基づいた調査・分析を行い、計画に反映させることなどが前回の評価結果である。 目標を実績に基づき設定したが、今後も利用状況等を検証し、計画を作成していきたい。</p>	<p>計画に位置付けられた事業は適切に実施された。 A ・持続可能な運行とするため、利用状況を踏まえ、効率的な運行となるよう、運行車両をバスからワゴン車に変更した。</p>	<p>B ・運行の継続を目標のひとつとしているが、利用者数は前年同月比較で増加しており、利用状況からも運行の継続が必要であることが窺える。 ・目標値である1便あたりの平均利用者数4.0人については、全8便中5便において上回っている。目標値に達していない3便についても、利用実績や調査結果に基づき、目標を達成できるよう検討していきたい。</p>	<p>事業の実施にあたっては、利用実績や調査結果からのデータを検証し、計画や目標を設定すると共に、利便性の向上に努めていきたい。</p>

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名: 栃木市地域公共交通会議

評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
栃木交通(有) 千代田タクシー(有) 栃木合同タクシー(株) 栃南タクシー(有) 富士タクシー(有) (有)大平タクシー 藤岡タクシー(株) (有)都賀タクシー (株)新交通	【デマンド交通】 北部エリア 南部エリア	特に、制度の周知のために、以下を行った。 ・各地域における説明会・出前講座の積極的に開催。 ・本格運行に伴い説明会を市内全域で開催。 ・民生委員・ふれあい相談委員への協力を依頼。 ・警察署と連携し、警察署窓口で運転免許証自主返納者に対して、支援制度利用の周知を徹底。(返納者に対して、デマンド交通の回数券配布を行う制度)	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 利用登録者数は目標15,000人に対し14,782人、利用者数は目標250人/日に対し226.7人/日であった。  【目標を下回った理由】 ・これまでになかった制度であるため、利用を敬遠している市民も多い。 ・エリア分けをしていることで、乗り継ぎが必要となる場合があり、利用を敬遠する場合も多い。 ・利用が、朝～昼の便に集中しており飽和状態であるが、午後の便には余裕があるため、その時間の利用を増やすことができる。	・引き続き、各地域・老人クラブ等での説明会・出前講座を積極的に開催し、制度の周知を図るとともに、利用者登録及び利用の呼びかけを行っていく。  ・乗り継ぎの接続改善や運行エリアの見直し等の見直しを必要に応じて行い、利便性の向上を図る。  ・午後の便の利用を促し、1日あたりの利用者数を増やす。

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名: 真岡市公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業  
(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者名 芳南交通(株) 潮田タクシー(株) (有)二宮タクシー  運行系統名 市内全域	真岡市全域	・宇都宮大学との共同研究で、利用者アンケートを実施し、利用意向や満足度等について分析を行い、運行方法の改善に活用した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A ・1日の平均利用者数は、目標の75人/日に対し、78.8人となり目標を達成した。 ・登録者数は、目標8,000人対して、平成26年9月末現在で7,999人と、目標をほぼ達成した。 ・利用者の満足度は、82.9%となっている。	・デマンドタクシーとコミュニティバスとの乗継意向や実績が少ないため、乗継方法を周知したり、真岡駅などの乗継場所の環境整備を行い、相互連携を推進する。 ・広域的な移動需要やその交通手段について把握し、真岡鐵道や路線バスとの効果的な連携について検討する。
事業者名 大越観光バス(株)  運行系統名 市内循環線 高勢町経由線	真岡駅西口 ↓ ↑ 真岡市役所 ↓ ↑ 真岡駅西口	・宇都宮大学との共同研究で、利用者アンケートを実施し、利用意向や満足度等について分析を行い、運行方法の改善に活用した。 ・コミュニティバスの運行経路周辺住民に対して、公共交通に対する意識や需要についてアンケート調査を実施した。 ・体験乗車会や学校MMを実施して、利用方法等のPRに努めた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B ・1日の平均利用者数は、目標の60人/日に対し、47.3人/日であった。平成26年7月は、56.8人/日であり、目標に近い期間もあった。 ・利用者の満足度は、76.4%となっている。	・利用状況等をより詳細に分析し、運行経路や時間等の改善を実施する。 ・利用の多い施設や停留所を中心にベンチを設置するなど、待機環境の改善に努める。

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名:大田原市地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダ系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
大田原市	佐久山・野崎駅線	初めての事業評価のため、前回事業評価なし。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 市営バス15路線の内5路線を廃止し、佐久山・野崎駅線を新設、11路線に再編、また黒羽地区にデマンド交通を導入した。 【利用者一人当たりの運行経費(市営バス11路線+デマンド運行)】 ●平成27年度(大田原市地域公共交通総合連携計画の最終年度) 目標値:230円/人(市営バス11路線228円・デマンド運行241円) ●平成26年度実績値:429円/人(市営バス11路線380円・デマンド運行3,847円) ≪目標値を下回った理由≫ ■市営バス11路線関係 ①15路線から11路線に再編したが、人件費及び燃料費の値上がりのため大幅な経費節減につながらなかったため ②再編に伴い利用者の多くが市営バスから東野交通路線バスに移行したため ■デマンド運行関係 デマンド運行導入のため黒羽地区内で廃止した4路線においては、利用者の大半が地区内の小中学生でスクールバスの役割で利用されていた。しかし、デマンド運行導入と同時期に地区内の完全スクールバス化が実現し、路線バスを利用して小中学生はスクールバスへと転換した。そのため、デマンド運行導入後、利用者の内、高齢者等は増加したが、小中学生が減少したため、運行経費は路線バス時代に比べ減少したものの目標額には及ばなかった。	利用促進のPR(市営バス路線・時刻表の配布やバスナビの配信、市ホームページ・広報誌を通じた情報提供等)を継続的に実施し、利用者数の増加に努めるほか、乗り合わせの率を高める等により運行経費削減を行い、平成26年度実績値である【利用者一人当たり運行経費429円/人】のさらなる圧縮を目指す。  ≪目標及び効果の見直し≫ 平成25年度の事業実績をもとに、当初策定した平成27年度の目標値を修正、平成27年度生活交通ネットワーク計画の策定時に、目標及び効果を見直しを行っている。
山和タクシー有限会社	黒羽地域区域運行				





## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名: さくら市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
さくらタクシー株式会社	旧喜連川町域	<p>広報紙、HP等による広報活動に加え、平成25年10月に区長会にて事業の説明を行い、事業の利用促進について協力を仰いだ。</p>	<p>A 計画どおり事業は適切に実施された。</p>	<p>【目標】 1人1回乗車あたりの公費負担額:500円 収支率:1/3以上 サービスに対する満足度:50%以上 【結果】 1人1回乗車あたりの公費負担額:1,097円 収支率:15.91% サービスに対する満足度:67.4% 【目標を達成できなかった理由】 利用者数が当初のもくろみより少なかったことから、公費負担額・収支率ともに目標値を達成することができなかった。</p>	<p>効率的な運行の実施により収支率を目標値に近づけるため、平成26年10月からジャンボタクシーによる運行を行っている。</p>
有限会社誠タクシー	旧氏家町域の一部(15行政区及び市街地)	<p>広報紙、HP等による広報活動に加え、平成25年10月にFMにて広報活動を行い、平成26年6月、9月には民生委員に対し事業の説明を行い、事業の利用促進について協力を仰いだ。</p>	<p>A 計画どおり事業は適切に実施された。</p>	<p>【目標】 同上 【結果】 1人1回乗車あたりの公費負担額:5,283円 収支率:4.07% サービスに対する満足度:41.3% 【目標を達成できなかった理由】 利用者数が当初のもくろみより少なかったことから、公費負担額・収支率ともに目標値を達成することができなかった。</p>	<p>平成26年10月から運行区域に4行政区を加え全19行政区を対象とした。 対象の拡大により、利用者数、収支率等の改善が見込まれる。</p>

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業) NO1

協議会名: 小山市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持事業

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
大山タクシー有限会社 城東中久喜線	小山駅東口 (イオンモール小山前) 高専入口	効果的な運行を継続するとともに、路線図、HP等を通じてPRに努め、沿線地域の方々の利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	A 目標170人/日に対して、197人/日であり、運行回数を確保し、運行を行っている。	今後も効果的な運行を継続し、路線図、HP等を通じてPRに努め、沿線地域の浸透及び利用促進を図る。
大山タクシー有限会社 大谷中央線	小山駅東口 (小山整形外科内科) 大谷公民館	ホームページ及び市広報誌を活用したPRなど事業者と自治体との協力により利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	B 目標190人/日(土塔平成通り線含む)に対して、176人/日(内157人)であり、目標をやや下回っている。	HP及び市広報誌を活用したPRなど事業者と協力して利用促進を図りながら、利用状況を調査し、ダイヤ見直しの検討を行う。
大山タクシー有限会社 土塔平成通り線	小山駅東口 (小山工業団地) たいらや前	ホームページ及び市広報誌を活用したPRなど事業者と自治体との協力により利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	B 目標190人/日(大谷中央線含む)に対して、176人/日(内19人)であり、目標をやや下回っている。	利用状況の調査、分析によりダイヤ・運行回数並びに系統そのものの見直し検討しつつ、利用促進を図る。
(株)小山中央観光バス 間々田東西線	間々田駅東口 (光南病院) 間々田駅西口	ホームページ及び市広報誌を活用したPRなど事業者と自治体との協力により利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	C 目標165人/日に対して、60人/日であり、目標を下回っている。	利用状況の調査、分析によりダイヤ・運行回数並びに系統そのものの見直しを検討しつつ、利用促進を図る。
(株)小山中央観光バス 思川駅線	小山駅西口 (豊田公民館) 思川駅	ホームページ及び市広報誌を活用したPRなど事業者と自治体との協力により利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	B 目標130人/日(道の駅線含む)に対して、103人/日(内60人)であり、目標をやや下回っている。	利用状況の調査、分析によりダイヤ・運行回数並びに系統そのものの見直しを検討しつつ、利用促進を図る。
(株)小山中央観光バス 道の駅線	小山駅西口 (JA穂積支店前) 道の駅	ホームページ及び市広報誌を活用したPRなど事業者と自治体との協力により利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	B 目標130人/日(思川駅線含む)に対して、103人/日(内43人)であり、目標をやや下回っている。	利用状況の調査、分析によりダイヤ・運行回数並びに系統そのものの見直しを検討しつつ、利用促進を図る。
大山タクシー有限会社 区域運行	桑絹地区	利用対象者である高齢者等への説明かを実施し、利用者の意見集約をしつつ、地用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけされたとおり、適切に実施された。	C 目標60人/日に対して、11.4人であり目標を下回っている。	高齢者等への説明会を実施するとともに集約した意見を基に運行内容の見直しを行い、利用促進を図るとともに満足度調査を行う。

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名: 日光市地域公共交通会議

評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
日光線通運(株)	小来川地区	地域住民に対して行なったアンケートの結果を踏まえ、平成25年10月から予約時間を始発便の2時間前までから1時間前までに変更したほか、利用方法を掲載した高齢者にもわかりやすく見やすい乗降場マップを作成し、運行地区の全世帯に配布した。また、バス停の随時変更を行うことにより利便性の向上に努めている。さらに、利用者増をはかるため高齢者交通安全教室において説明会を開催し、新規利用者への周知及び既利用者からの意見聴取なども実施している。	A 計画どおりに事業は適切に実施された。	C 当初の目標では1便あたりの利用者を2人以上と見込んでいたが、結果、1.26人に止まった。利用者が伸びない理由としては、予約のわずらわしさ、バス停まで歩くことに対する負担などが原因だと考えている。利便性の向上、周知の徹底を図る必要がある。	今後も引き続き住民説明会を開催し周知に努めるとともに対象地域に対して利用チラシを配布することにより利用促進を図る。また、バス停方式からドア・ツー・ドア方式に移行することも視野に入れ利便性向上に努める。
日光線通運(株)	猪倉地区	地域住民に対して行なったアンケートの結果を踏まえ、平成25年10月から予約時間を始発便の2時間前までから1時間前までに変更したほか、利用方法を掲載した高齢者にもわかりやすく見やすい乗降場マップを作成し、運行地区の全世帯に配布した。また、バス停の随時変更を行うことにより利便性の向上に努めている。さらに、利用者増をはかるため高齢者交通安全教室において説明会を開催し、新規利用者への周知及び既利用者からの意見聴取なども実施している。	A 計画どおりに事業は適切に実施された。	C 当初の目標では1便あたりの利用者を1人以上と見込んでいたが、結果、0.40人に止まった。利用者が伸びない理由としては、予約のわずらわしさ、バス停まで歩くことに対する負担などが原因だと考えている。利便性の向上、周知の徹底を図る必要がある。	今後も引き続き住民説明会を開催し周知に努めるとともに対象地域に対して利用チラシを配布することにより利用促進を図る。また、バス停方式からドア・ツー・ドア方式に移行することも視野に入れ利便性向上に努める。
日光線通運(株)	落合地区	地域住民に対して行なったアンケートの結果を踏まえ、平成25年10月から予約時間を始発便の2時間前までから1時間前までに変更したほか、利用方法を掲載した高齢者にもわかりやすく見やすい乗降場マップを作成し、運行地区の全世帯に配布した。また、バス停の随時変更を行うことにより利便性の向上に努めている。さらに、利用者増をはかるため高齢者交通安全教室において説明会を開催し、新規利用者への周知及び既利用者からの意見聴取なども実施している。	A 計画どおりに事業は適切に実施された。	C 当初の目標では1便あたりの利用者を1人以上と見込んでいたが、結果、0.22人に止まった。利用者が伸びない理由としては、予約のわずらわしさ、バス停まで歩くことに対する負担などが原因だと考えている。利便性の向上、周知の徹底を図る必要がある。	今後も引き続き住民説明会を開催し周知に努めるとともに対象地域に対して利用チラシを配布することにより利用促進を図る。また、バス停方式からドア・ツー・ドア方式に移行することも視野に入れ利便性向上に努める。

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名: 下野市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域公共交通確保維持事業

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
事業者名: 関東交通株式会社 運行系統名: 下野市全域	石橋地区 国分寺地区 南河内地区	エリア運行の廃止については、10人乗りワゴン車での1時間内運行では状況的に状況的に困難なため、段階的措置として乗継料金の廃止を実施した。	A	計画的に事業は適切に実施された。	A 目標1エリア24人/1日に対して24.7人/1日でほぼ目標を達成することができた。	公共交通を持続可能なものとするためには、利用率の向上につなげる必要があるため、PRに努めるとともに、利用者の利便性向上のために、見直し等を行う。

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名: 茂木町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域公共交通確保維持事業

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
茂木合同タクシー(株)	茂木エリア 逆川エリア		A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 3年目65日間(H25.10～H25.12.18)の目標利用者数2,600人(40人/日)に対し、2,705人(41.6人/日)であり目標を達成することができた。	平成25年12月19日以降、茂木合同タクシーへの運行事業(車輛の借上げ)を廃止し、(株)柏タクシーへ当該エリアの運行事業を引き継ぐ。
(株)柏タクシー	茂木エリア 逆川エリア		A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 3年目(228日間)10カ月間(H25.12.19～H26.9)の目標利用者数9,120人(40人/日)に対し、9,176人(40.2人/日)であり目標を達成することができた。 事業者の突然の自己破産により、急きょ当該エリアを受持つこととなった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収支改善に向けて、運賃の値上げを引き続き検討していく。</li> <li>・現在実験中の公共交通と街中での買い物客の増進を目指すため導入した「めぐるくndeおでかけ券」は、徐々に浸透し一定の効果が得られたことから、2,000枚に増強し協賛(力)店事業を継続していく。</li> <li>・利用者の少ない14時15時便を利用するお客様限定の50円特別割引券を限定3,000枚導入し、需要喚起と稼働率及び収支率の改善を目指す。</li> </ul>
(株)柏タクシー	中川エリア 須藤エリア		A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 3年目(293日間)12カ月間(H25.10～H26.9)の目標利用者数11,720人(40人/日)に対し、13,453人(45.9人/日)であり目標を達成することができた。	

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名:市貝町地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
茂木合同タクシー(株) (H25.10.1~H25.12.18)	市貝町全域、芳賀町祖母井地区、芳賀町上延生ロマンの湯・芳賀中央クリニック、茂木町茂木さとう耳鼻咽喉科クリニック、益子町芦沼青木医院	前回の事業評価においては目標を達成したと評価したが、利用実態を常に注視し、継続して利用者の利便性向上を図った。	B 運行委託事業者の破産手続開始により、事業年度途中の運休を余儀なくされた。	B 目標26人/日に対して、21人であった。PR不足により利用者が伸び悩んだ。	—
(株)柏タクシー (H26.2.26~H26.9.30)	市貝町全域、芳賀町祖母井地区、芳賀町上延生ロマンの湯・芳賀中央クリニック、茂木町茂木さとう耳鼻咽喉科クリニック、益子町芦沼青木医院	前回の事業評価においては目標を達成したと評価したが、利用実態を常に注視し、継続して利用者の利便性向上を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標26人/日に対して、29人であった。	今後も町HP等を活用してPRに努め、利用者等を考慮しながら運行車両の見直しを行う等さらなる利便性の向上を目標とする。

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名: 益子町地域公共交通会議

評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
七井タクシー 七井地区	七井～益子地区	H25.10に利用者アンケートを実施。ニーズの把握に努めた。利用者の約7割が全体的に満足していると回答。改善点に関する意見を集約し関係事業者と共有している。	A	計画通り、事業は適切に実施された。	B	今後も利用者増加のために、高齢者単独世帯への周知として地域の民生委員に対しての説明と依頼、さらなるPRを行い、利用者を増やしていくなどの取組を行う。 また、デマンドタクシーにより地域が活性化するような方策、既存の公共交通とのさらなる連携方策を検討する。
益子タクシー(有) 田野地区	田野～益子地区		A	計画通り、事業は適切に実施された。	B	
新光タクシー(有) 益子地区	益子～七井～田野地区		A	計画通り、事業は適切に実施された。	B	

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名: 壬生町地域公共交通会議

評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
野口タクシー有限会社 みどり交通有限会社 壬生観光自動車有限会社 壬生タクシー有限会社	運行区域: 壬生町全域 運行日: 月～金(土・日・祝日、年末年始運休) 運行時間: 8～17時 1時間/便 運行本数: 1日9便 運行本数: セダン型タクシー2台 運賃: 中学生以上300円、小学生100円、未就学児無料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内の小・中学生に無料利用券を配布し、デマンドタクシー周知に努めた。</li> <li>・町内にPRのぼりを設置し、利用啓発に努めた。</li> </ul>	A 事業は計画通り適切に実施された。	B 利用者数目標9,760人/年に対し、8,730人/年であった。  【目標を下回った理由】 ・1日利用平均40人の利用目標のところ36人/日となっており、概ね達成していると考えられるが、午後の利用や雨天時などの利用者が少なく、目標を下回った。 【目標達成状況に応じた効果】 各種PRにより、デマンドタクシーについて周知が図られ、1日の平均利用者数や1便当たりの利用者数、収支率は前回評価時と比べ、それぞれ15人/日、0.6人/便、6.8%増加した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デマンドタクシーの利用に関する案内を町広報等を通し継続的に行う。</li> <li>・利用者アンケート等を行い、利用者の要望に応じたサービス提供が図られるよう改善を図る</li> </ul>



## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名: 上三川町地域公共交通会議

評価対象事業名: 上三川町デマンド交通

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
関東交通株式会社	上三川町デマンド交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報等で事業のPRを行ったことで、利用人数の増加が図られた。</li> <li>・新たに車内広告掲載事業を行ったことで、運賃収入以外の収入が得られることになった。</li> </ul>	A	計画どおり事業が実施された。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業を継続的に実施する。</li> <li>・引き続き、広報等で事業のPRを実施し、利用登録人数の増加を図る。</li> <li>・広告収入の安定化を図る。</li> <li>・アンケート等で利用者の意見を聞き、事業内容の見直しを行う。</li> </ul>

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名: 野木町公共交通活性化会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>・小山合同タクシー(株) ・(有)野木タクシー</p>	<p>町内全域</p>	<p>・利用者アンケート等より、利用者のニーズ及び利便性を考慮し、シルバーカーの持ち込みができるよう対応した。また、予約事例のチラシを作成し、トラブルに対応した。 ・利用者の約94%を占める高齢者を対象に、町主催の敬老会の開催会場において、約2,300部の利用案内のパンフレットを配布し、制度の周知、登録及び利用の促進を図った。 ・高齢者等の移動手段が確保できない人のための「地域の足」を確保する事業目的が達成しているかどうか利用者アンケートを実施した。</p>	<p>A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>B ・目標数値である利用登録者数の3,000人対して、1,991人(平成26年9月末現在)であった。実証(試行)運行の当初年度の平成21年度(実施は11月から)は1,223人、2年目の平成22年度は271人、3年目の平成23年度は230人、平成24年度は210人、平成25年度は245人の登録があり、初年度を除き、毎年度おおよそ同等数の登録がなされてきている。利用登録者数は、目標数値の3,000人には達しないものの、順調に伸びていたが、運行から約6年を経過した平成26年度では、174人の登録と減少の傾向が出た。今後は、運行期間の6年間の実績を踏まえた目標値に改めていく。 ・目標数値である1日平均利用者数の45人/日に対して、約35.0人/日であった。実証(試行)運行の当初年度の平成21年度(実施は11月から)は23.8人/日、2年目の平成22年度は29.3人/日、3年目の平成23年度は31.8人/日、4年目の平成24年度は34.5人/日、5年目の平成25年度は36.8人の1日平均利用者数の数値が出ている。1日平均利用者数は、目標数値の45人/日には達しないものの、順調に伸びていたが、運行から約6年を経過した平成26年度では、平均利用者の減少の傾向がみられた。今後は、運行期間の6年間の実績を踏まえた目標値に改めていく。 ・利用者の年齢については、65歳以上の利用者が全体の93.8%であった。また、利用者アンケートの回答者のうち、外出の際の移動手段として徒歩、タクシー、デマンド交通のいずれかのみを利用していると回答した方が41.0%で、そのうちの過半数が送迎をたのめる人がいないとの回答を得たことから事業目的である高齢者等の交通弱者対策のための「安全で安心に移動できる「地域の足」の確保」として事業目的を果たしていることが伺える。</p>	<p>今後も、アンケート調査により、利用者のニーズ等を把握し、利用者の利便等を考慮した運行の実施を検討課題としていくとともに、登録及び利用の促進を図るため、引き続き本事業の周知等を行う。 また、定量的な目標・効果については、運行実施から約6年が経過したこともあるので、6年間の実績を踏まえた目標値に改めていく。</p>

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名: 那須町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィード系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
那須合同自動車株式会社	北部運行区域(黒田原行き)	初めての事業評価のため、前回事業評価なし。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 年間利用者数6,300人の目標値に対して、平成26年度の年間利用者数は4,499人であり、目標を達成することはできなかった。運行開始前に比べ「往復で利用する人の割合」は増加し、「公共交通を利用できる圏域」を拡大することはできた。しかし、「行きたい場所に行けない」等の理由により利用登録はしたが利用していない方も多く、目標達成に至らなかったものと考えている。	広報誌等により運行情報・利用方法等の周知を図り、利用抵抗(予約等、利用方法のわかりづらさに起因するものと考えられる)の軽減を目指す。また、広谷地行きの実行開始等により利用しやすさの向上を図り、新たな利用者の獲得にも努める。それらの取り組みにより、利用者数6,300人/年の達成を目指す。
	南部運行区域(黒田原行き)				

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名: 桐生市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
株式会社沼田屋タクシー	黒保根町デマンドタクシー 運行区域:黒保根地区	事業評価の初年度であるため、記載なし	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B <p>目標である20人/1日に対し、補助対象期間である平成26年4月から9月末までの1日当たりの平均利用者数は18.6人であった。</p> <p>目標には及ばなかったが、平成25年度に行った1年間の実証実験では、1日当たりの平均利用者数が17.7人であったことから、平成26年度における利用者数は増加傾向にあり、当該地域における日常生活に必要な移動手段の確保はできているものと考えられる。また、平成26年5月において、観光客と思われる一般の利用者が多かったことなどから、1日当たりの平均利用者数が21.4人となり、目標の20人/1日を上回ることができた。</p> <p>また、利用状況を見ると、大半の利用が黒保根町内にあるわたらせ渓谷鐵道水沼駅に接続されるものであることから、幹線を結ぶ支線としての役割を果たしており、日常生活を支えるために必要な事業であると判断される。</p>	<p>今後も運行事業者から報告される日報などから利用状況を分析し、利用実態を把握するとともに、利用促進に向けた取り組みとして、地域の観光資源を活用した周知を図るなどしながら、持続可能な運行に努める。</p> <p>また、運転免許証自主返納者支援事業として行う、黒保根町デマンドタクシーの回数券の交付についても積極的な周知を図り、安全安心な市民生活がおくれるよう努める。</p> <p>【今後の目標値について】 人口減少が続く中で、わずかではあるが利用者数が増加傾向にあることから、1日当たりの利用者数については、引き続き20人とする。</p>

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名：甘楽町地域公共交通会議

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
有限会社 昭和タクシー	町内全域における デマンドタクシー運行		A 計画どおり、事業は適切 に実施された。	A 目標利用者数 7,300人/年 に対して、9月30日までの 6ヶ月間の実績利用者数が 4,617人となり、目標利用者 数を大きく上回っている。	高齢者や交通不便地域住民 を含めた、交通弱者への更なる 利用促進を図りたい。

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名:熊谷市地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>事業者名:国際十王交通株式会社                      運行系統名:江南地区路線「ほたる号」</p>	<p>【概要】一般乗合旅客自動車運送事業                      【運行日】平成23年10月1日運行開始。毎日運行。ただし、1月1日から1月3日まで運休。                      【運行時間帯】6:20～20:09                      【運行本数】1日6往復                      【運行ルート】江南行政センター～熊谷駅南口～江南行政センター～籠原駅南口～江南行政センター                      【運行車両】ノンステップバス1台※国庫補助金「車両原価償却費等」あり                      【運賃】(1)1回の運賃 100円(2)1日乗車券 300円(3)運賃の免除について 未就学児、障害者手帳(3種)所持者及びその介助・付添人1人、運転免許を自主返納した70歳以上の市民</p>		<p>A                      大雪による自然災害で運行できない期間があったが、事業は概ね適切に実施された。</p>	<p>A                      【利用者数】                      《目標》                      平成26年度(H25.10.1～H26.9.30)29,000人                      1便(往復)当り13.4人                      《実績》                      平成26.9月末時点(H25.10.1からH26.9.30まで2,172便運行)                      35,273人                      1便当り16.2人                      《考察》                      平成25年3月末時点の1便当りの乗車人数の実績が11.8人であり、今回の実績が16.2人であることから、大幅に増加している。また、目標の13.4人も上回る結果となった。今後も引き続き利用者の増加に努めたい。</p>	<p>【既に実施した利用促進策】                      ・「江南地区路線」の愛称、イラストを公募し、新規車両の納車に合わせ、ラッピングを施工した。                      ・地元からの要望にもとづき、バス停の新設を行った。                      【今後の改善点】                      ・江南地区の地元自治会と一緒に周知を行い、更なる利用者の増加に努めていく。                      ・H27.1から利用促進策の一環として、回数券を販売する。</p>

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名: 加須市地域公共交通会議

評価対象事業名: 加須市コミュニティバス運行事業

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者名:朝日自動車(株)	新古河駅～騎西総合支所	シャトルバスの利用促進を図るため、平成25年10月からシャトルバスの路線延長及び停留所を7箇所から17箇所に増設する見直しを実施した。	<p>●計画に位置付けられた事業は適切に実施された。</p> <p>・市の北部から南部までを結ぶシャトルバスの運行により、市内の鉄道間の連携及び市の一体性が図られている。</p> <p>A</p> <p>・各フィーダー系統については、利用状況や意見等を踏まえて必要に応じ改善を図り、来年度以降も継続している。</p>	<p>目標である1日平均利用者数30人に対し、平成26年度は13.9人であった。</p> <p>なお、平成25年10月の見直しの結果、1日平均利用者数は、平成24年10月から平成25年9月の10人に対し、平成25年10月から平成26年3月は12.3人、平成26年4月から平成26年9月は15.4人と着実に利用者が増えている状況である。</p> <p>C</p>	<p>市民ニーズや利用状況を分析のうえ、運行経路やバス停留所の増設などの必要性について検討し、より利用しやすいシャトルバスの運行に努めるものとする。</p>
事業者名:朝日自動車(株)、加須タクシー(株)、騎西タクシー(有)	加須市全域及び久喜市内栗橋駅西口	デマンド型乗合タクシーの利用促進を図るため、様々な機会を捉え周知活動を実施した。	<p>●計画に位置付けられた事業は適切に実施された。</p> <p>・市全域等におけるデマンド型乗合タクシーの運行により、交通弱者の移動手段の確保や公共交通不便地域の解消が図られている。</p> <p>A</p> <p>・各フィーダー系統については、利用状況や意見等を踏まえて必要に応じ改善を図り、来年度以降も継続している。</p>	<p>目標であるデマンド型乗合タクシー利用登録者数30,000人に対し、11,240人の登録されており、前年度から1,325人増加した。運行開始当初から増加傾向で推移しており、引き続き目標値の達成に努めるものとする。</p> <p>B</p> <p>目標である1日平均利用者数100人に対し、102.4人の利用であり、目標値を達成した。</p>	<p>・効果的な周知方法を検討し、利用登録者数の増加を図っていくこととする。</p> <p>・市民ニーズや利用状況を分析のうえ、より利用しやすいデマンド型乗合タクシーの運行に努めるものとする。</p>

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名: 本庄市交通政策協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
朝日自動車株式会社	本庄北地域デマンド	前回の事業評価なし	A	B 目標利用者数:26,000人 平成26年度の利用者数 :13,197人	<p>【デマンド交通】 利用者数の目標を下回った理由としては、従来の市内循環バスが無料であったのに対して有料になったこと、また、従来の定期路線運行から事前予約の方式に変わったこと等が考えられる。広報紙によるサービスの説明・周知を継続していくとともに、高齢者等を対象とした”利用につながる説明会”等の開催により、需要の掘り起こしを図る。</p> <p>【シャトル便】 利用者の半数が市外在住者であるとの調査結果が出ている。市外の方への情報発信力が低いことが、目標を下回った一因だと考えられる。住民へのPRを継続するとともに、時刻表を乗換検索サイトに掲載するなど、デマンド交通とは異なるアプローチにより利用促進を図っていく。</p>
	本庄南地域デマンド		A	B 目標に対する実利用者数の割合は50.75%にとどまったが、既存路線バスや鉄道駅へのアクセス向上、また、病院・スーパー・公共施設等へのアクセスが向上し、交通不便地域の解消及び高齢者等の交通弱者の移動手段を確保できた。	
	児玉市街地デマンド		A	B	
	児玉山間地域デマンド		A	B	
本庄観光株式会社	本庄シャトル便	前回の事業評価なし	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B 目標利用者数:17,000人 平成26年度の利用者数 :7,608人  目標に対する実利用者数の割合は44.75%にとどまったが、従来、タクシー以外の移動手段が存在しなかった本庄駅～本庄早稲田駅間の新たな移動手段を確保できた。また、利用者数は増加の傾向にあり、交通結節点としての機能充実、及び快適なネットワークの形成が図れた。	<p>【共通事項】 事業評価に先立ち、アンケート結果や利用状況を基に、本庄市交通政策協議会において運行の検証を行った。本改善点は、協議会での議論を踏まえた取り組み内容である。利用者のニーズ、地域と各運行区域の特性などを踏まえ、記載した内容を中心に適正・適法に改善に取り組んでいく。</p>



# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名: 鳩山町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
川越観光自動車(株)	町内循環(NT石坂)	利用者や利用者以外の需要分析調査のため利用登録者アンケートを計画に記載し、9月に「デマンドタクシー・町内循環バス」に関する意識調査を実施。	A 大雪により運行できない期間があったが、事業は概ね適切に実施された。	C 利用者数:114.0人(ニュータウン・石坂コース14.3人、ニュータウンコース19.7人[対象外路線]、デマンドタクシー80.0人) 目標の127人に未達の理由は、12月～3月にかけて、福祉センター浴場改修工事の影響により、特に町内循環バスの利用者が減少である。	「デマンドタクシー・町内循環バス」に関する意識調査では、現在は利用していないが将来のために事業を継続して欲しいとの意見が多くあった。そのため、利用促進策として、モビリティ・マネジメントの実施や、はとやまエコポイント制度の創設、警察署と連携して免許の返納と結びつけた取組などを検討する。
				C 収支率:13.3%(町内循環5.7%、デマンドタクシー17.7%) 目標の16.7%に未達の理由は、消費税の増税による経費増大、利用者減少や運賃収入の計算方法の見直しによる収入減少である。	経費の削減が難しいため、利用者を増やす取組によって収入を増やす。また、広告料収入やシルバーパスの販売促進など、自主財源の確保を強化する。
(株)越生タクシー	デマンドタクシー		A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 利用登録者数:2,904人 目標の3,000人に未達の理由は、若中年層の利用登録者があまり増えなかったことである。	転入者に対してデマンドタクシーを説明し、その場で登録ができるよう取組む。
				A ・人口密集地においては、定時定路線のバスを走らせ効率化。 ・人家が離れ、戸数も少ないなど、定時定路線の交通が適さない地域には、予約による柔軟な交通を提供。 ・坂の多い地域では、停留所まで歩けない高齢者にも優しい、ドア・ツー・ドア・サービスを提供。 ・町外の総合病院への代替交通を提供。	効果については、今後も継続できるよう、事業者、自治体、関係機関の連携を適切に行う。



## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名: 小鹿野町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
秩父丸通タクシー株式会社	<p>運行系統名: 小鹿野伊豆沢長若乗合タクシー</p> <p>本乗合タクシー運行事業は、主に小鹿野町の交通空白地域を含めた地域を運行し、西武鉄道・西武秩父駅及び秩父鉄道・秩父駅から町内へと運行している西武観光バス小鹿野線の複数の停留所と接続し、町営バスとの接続や地域内の高齢者・障害者を中心とした利便性向上を図るものである。</p>	平成25年10月1日からの運行開始	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	C 事業が計画に位置づけられた目標を達成できなかった。 【目標】年間利用者数 5,860人 【実績】 2,117人	<p>運行事業については、平成26年2月の豪雪時等を除き、337日間年中無休で運行し、高齢者・障害者を中心にバス停・自宅から病院、福祉施設、温泉施設等への足として1日当たり約6.3人の利用があった。</p> <p>しかし、目標として掲げた利用者数には満たなかった。目標数値が高かったことや、高齢化・人口減少の影響もあるため、今後は更にPRに努め、又適正な利用者数を目標とする。</p>



# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名: 茂原市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>事業者: 小湊鐵道株式会社 運行系統: 南部(鶴枝)・南部(五郷)</p>	<p>南部(鶴枝): 茂原駅～三ヶ谷神社～茂原駅 南部(五郷): 茂原駅～石神集会所～茂原駅</p>		<p>A 計画どおり事業は適切に実施された。</p>	<p>C 目標である市民バス全体の1年間の利用者数13,172人に対し12,858人であり目標を達成することが出来なかった。 しかしながら公共交通の空白地域の解消、隔日運行から平日毎日運行への変更、公立長生病院へのアクセス向上等により外出機会の向上、路線バスの維持が図られ、幹線への接続できる交通手段の確保ができた。</p>	<p>平日毎日運行にし、路線間の乗継ぎを可能にしたことにより市北部に位置する公立長生病院へのアクセスが向上し南部(鶴枝)・南部(五郷)コース利用者の増加に繋がったが、平日毎日運行に伴い一日当たりの運行便数が減少したことにより北部(豊岡)・東部コース利用者は減少している。 このことから南部(鶴枝)・南部(五郷)コースについては平日毎日運行を維持し、利用者の減少が著しい東部コースについては運行便数の拡充をし利用者の増加を図る。 また、広報・自治会への回覧等を通じ運行内容の周知を図る。</p>
<p>事業者: 都自動車株式会社 運行系統: 北西エリア</p>	<p>茂原市北西エリア</p>		<p>A 計画どおり事業は適切に実施された。</p>	<p>C 目標である利用登録者数500人・1日当たり利用者数23.8人に対し、利用登録者数272人・1日当たり利用者数3.9人であり目標を大きく下回っている。</p>	<p>目標を大きく下回っており利用方法の改善が必要であるため、現在の前日予約から当日予約への変更を検討する。 また、広報・自治会への回覧等を通じ制度のさらなる周知を図ると共に、説明会を積極的に実施し利用登録者数500人・1日当たり利用者数23.8人を目指す。</p>

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名: いすみ市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	
小湊鉄道(株) いすみ循環-1	市役所大原庁舎~長者町駅~いすみ医療センター~市役所大原庁舎	鉄道における大幅なダイヤ改正が実施されていないため、運行時刻の改正は行っていないが、利用実績を注視しながら、児童・生徒の通学利用の促進を図った。	A	平成26年度の補助対象期間(平成25年10月から平成26年9月)中の利用者目標60,000人のところ、実績は60,465人であった。全系統における利用者合計では目標値を上回ったが、大原巡回線の一部の系統(大原巡回東線、浪花線、大原線、大原・国吉線)については、対前年比で利用者が若干減少している。(対前年比:大原巡回東線97.5%、大原巡回浪花線94.2%、大原巡回大原線98.4%、大原巡回大原・国吉線98.1%) 通学にも利用される大原巡回東線及び浪花線の減少理由は、少子化により対象となる沿線の児童・生徒の減少が大きな要因と考える。 全体的には、対前年比で101.7%の利用が見られるなど市全体での路線バスの維持が図られ、移動手段の確保ができた。	利用実態を注視した中で、鉄道のダイヤ改正の状況に合わせた運行時刻の見直しに配慮しつつ、地域の小・中・高等学校と連携を図りながら、今後も利用促進に向けた継続的な啓発を実施する。	
小湊鉄道(株) いすみ循環-2	長者町駅~いすみ医療センター~市役所大原庁舎		A			
小湊鉄道(株) いすみ循環-3	長者町駅~市役所夷隅庁舎前~市役所大原庁舎		A			
小湊鉄道(株) いすみ循環-4	国吉駅入口~太東駅~長者町駅		A			
小湊鉄道(株) いすみ循環-5	市役所大原庁舎~長者町駅~市役所夷隅庁舎前		A			
小湊鉄道(株) いすみ循環-6	市役所夷隅庁舎前~下布施~市役所大原庁舎		A			
(株)HMC東京 大原巡回東線	清水尻橋~山田新町~市役所大原庁舎		A		A	利用実態を注視した中で、鉄道のダイヤ改正の状況に合わせた運行時刻の見直しに配慮しつつ、地域の小・中学校と連携を図りながら、今後も利用促進に向けた継続的な啓発を実施する。
(株)HMC東京 大原巡回浪花線-1	市役所大原庁舎~自動車教習所入口~市役所大原庁舎		A			
(株)HMC東京 大原巡回浪花線-2	浪花駅~自動車教習所入口~市役所大原庁舎		A			
(株)HMC東京 大原巡回大原線	市役所大原庁舎~造式公会堂~大井区民会館~市役所大原庁舎		A			
(株)HMC東京 大原巡回東海線	市役所大原庁舎~玉前神社~三門駅~市役所大原庁舎		A			
(株)HMC東京 大原巡回大原・国吉線	いすみ医療センター~岸~市役所大原庁舎		A			
(株)HMC東京 大原巡回布施線	市役所大原庁舎~上総東駅~下布施~市役所大原庁舎		A			

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名: 旭市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持事業

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
千葉交通株式会社 干潟地区ルート(CC-6-1)	干潟支所～東6区集会所～東1区集会所～旭中央病院	<p>前回は地元住民の要望と交通空白地域の解消を目的とした一部ルートの延伸を図った。このことにより新たな利用者の掘り起こし(通学や通院利用)をすることができた。また、生活交通ネットワーク計画に掲げた「生活の質の向上」「自家用自動車で送迎してもらっていたものがバス利用へ移行」など、移動の円滑化も図られ、計画実施による効果が見られた。</p>	A 計画どおり事業は適切に実施されている。	<p>目標10人/平日1便、5人/休日1便に対して、8.7人/平日1便、4.7人/休日1便であった。新たな地区への乗り入れを開始したことにより、公共交通の空白地域の解消が図られるとともに、利用者の増加(前年度比7.8%増)など一定の効果が見受けられたが、定量的な目標を達成するに至らなかった。</p>	<p>目標は達成できなかったが、今後も利用状況の把握、利用者の意見聴取などを行い、必要に応じた運行形態、ダイヤ等の見直し・検討を行うとともに、利用促進に向けた啓発などの取り組みを行っていく。</p>
千葉交通株式会社 干潟地区ルート(CC-6-2)	干潟支所～湯木坂上～干潟駅		A 計画どおり事業は適切に実施されている。		
千葉交通株式会社 干潟地区ルート(CC-6-3)	干潟駅～湯木坂上～東一区集会所～旭中央病院		A 計画どおり事業は適切に実施されている。		
千葉交通株式会社 干潟地区ルート(CC-6-4)	旭中央病院～東一区集会所～市役所～旭中央病院		A 計画どおり事業は適切に実施されている。		
千葉交通株式会社 干潟地区ルート(CC-6-5)	旭中央病院～市役所～湯木坂上～干潟支所		A 計画どおり事業は適切に実施されている。		
千葉交通株式会社 干潟地区ルート(CC-6-6)	旭中央病院～東1区集会所～東6区集会所～干潟支所		A 計画どおり事業は適切に実施されている。		

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名：山武市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者名:ちばフラワーバス(株) 運行系統名:山武市基幹バス(蓮沼⇄山武)	山武市基幹バス【コミュバス】(蓮沼⇄山武)	改善点で実施を予定した、お試し乗車キャンペーンを実施し、利用者の確保に努めた。	●計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。 A ・お試し乗車キャンペーン等により、基幹バスの認知度が向上し、利用促進が図られている。 ・アンケートの集計結果や利用状況を踏まえて必要に応じ改善を図り、来年度以降も継続する。	【利用者数】 目標である8,000人/月に対して、平成26年のコミュバス、デマンド交通の平均利用者は、コミュバスが3,393人/月、デマンド交通が4,319人/月となっており、コミュバス・デマンド交通合計では7,713人/月となり、目標は達成していないが、96.4%の達成状況となっている。ただし、コミュバス・デマンド交通合計の利用者数については、前回評価時の7,478人/月から、235人/月、利用者数は増加している。また、月別の利用者数では、平成25年12月、平成26年7月・8月は8,000人/月を超えており、月によっては目標人数を達成している。	【コミュバス】 ・利用者からの要望として挙げられる改善案を運行計画に反映させ、コミュバスの路線変更等を実施する事で、既存利用者以外の利用者を確保する。
事業者名:房総自動車(有) 運行系統名:山武市乗合タクシー(成東、山武、松尾・蓮沼)	山武市乗合タクシー【デマンド交通】(成東、山武、松尾・蓮沼)		●計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。 A ・アンケートの集計結果や利用状況を踏まえて必要に応じ改善を図り、来年度以降も継続する。	B 【公共交通に関する満足度】 目標値47.8%のところ、山武市まちづくりアンケートの調査結果をみると、市内外への公共交通機関(バス・電車)での移動について「満足」「やや満足」「ふつう」と回答した市民の割合は、平成26年4月～5月の調査では43.3%と目標値47.8%を4.5%下回っているが、前回評価時の39.7%から3.6ポイント満足度が向上している。	【デマンド交通】 ・蓮沼・松尾地域、山武地域、成東地域において、1日1台当たりの利用者数に差があることから、利用の少ない蓮沼・松尾地域の利用者を獲得できるよう、モビリティ・マネジメントを通じ乗合タクシーの利用方法の周知や、PR活動を実施し利用者数の向上に努める。
事業者名:両総観光(株) 運行系統名:山武市乗合タクシー(成東、山武)	山武市乗合タクシー【デマンド交通】(成東、山武)	デマンド交通を利用するためには、事前登録が必要であるため、未だ利用した事が無い方に向けた説明会を実施し、利用登録者を確保した。	●計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。 A ・アンケートの集計結果や利用状況を踏まえて必要に応じ改善を図り、来年度以降も継続する。	【収支率】(ネットワーク計画の目標値ではないが25%が目標) コミュバス：25.38% デマンド交通：25.43%	【コミュバス・デマンド交通】 ・本公共交通の持続可能性を高めるため、運賃収入以外の新たな財源確保のため、有料広告による広告収入の導入を検討する。
事業者名:(有)松尾タクシー 運行系統名:山武市乗合タクシー(成東、松尾・蓮沼)	山武市乗合タクシー【デマンド交通】(成東、松尾・蓮沼)		●計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。 A ・アンケートの集計結果や利用状況を踏まえて必要に応じ改善を図り、来年度以降も継続する。	【収支率】(ネットワーク計画の目標値ではないが25%が目標) コミュバス：25.38% デマンド交通：25.43%	【コミュバス・デマンド交通】 ・本公共交通の持続可能性を高めるため、運賃収入以外の新たな財源確保のため、有料広告による広告収入の導入を検討する。



## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名:香取市地域公共交通協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
千葉交通株式会社	小見川循環バス(西ルート)	実証運行の成果を踏まえ本格運行に移行した小見川循環バスを引き続き運行する一方、東南ルートの休止により困難となる高校生を主とした利用者への輸送に対応するため、一部ルートの変更等を行った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B 計画目標の年間利用者数13,100人に対し、実績は12,256人となった	今後も利用状況の把握、利用者の意見聴取を継続的に行い、必要に応じたダイヤ等の見直し・検討を行うとともに、利用促進に向けた取り組みを行っていく。
株式会社千葉交タクシー	小見川乗合タクシー	実証運行の成果を踏まえ小見川循環バスとして本格運行に移行したが、アンケート調査の結果、目的地や自宅がバス停から遠いなど、路線運行の問題点の声が多く寄せられたため、東南ルートを新しい運行形態であるデマンド型の乗合タクシーに切り替えて試験運行を開始した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A 計画目標の年間利用者数4,300人に対し、実績は5,031人となった	今後も利用状況の把握、利用者の意見聴取を継続的に行い、運行内容の見直し・検討を行いつつ、運行を継続する中で利用の促進を図りながら本格運行移行の可否決定に向けた諸課題の整理を行う。(特に持続可能な運賃設定や、効果的な啓発方法を検討する。)

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名:市原市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項含む)
小湊鉄道(株)	①市原鶴舞BT～湯原～里見駅	適宜、運行ダイヤ・運行ルートの改善等を行った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A ・平成25年4月に加茂地区の5校を統合して開校した小中一貫教育校の児童生徒の通学手段の確保に寄与した。 ・目標「加茂学園授業日52人/日」に対して、「69.4人/日」であった。	今後も、小中一貫教育校の通学に対応したダイヤ編成等を検討していく。
	②市原鶴舞BT～山口駒込～里見駅				
	③市原鶴舞BT～高滝駅～里見駅				
	④市原鶴舞BT～市原湖畔美術館～山口駒込～里見駅				
	⑤市原鶴舞BT～市原湖畔美術館～高滝駅～里見駅				

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(案)(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名: 君津市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
大新東株式会社 君津営業所	小櫃・上総地区	—	A	計画通り事業は適切に実施された	A	効率的な配車による乗合率の向上等により、予約が取りにくい時間帯の改善を図る。
	亀山地区(スクール併用)	—	A	計画通り事業は適切に実施された		スクール利用以外の利用者増に向け、利用促進を図る。

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

会 議 名 : 印西市地域公共交通会議

評価対象事業名 : 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>事業者名 ちばレインボーバス(株)</p>	<p>【コミュニティバス(ふれあいバス)】 運行系統:印旛支所ルート(印旛支所～竜腹寺～印旛支所) 23.2km 運行日:毎日運行 運行時間帯: 7時57分～17時07分 運行本数:6便/日(循環型) 運行車両:1台 運賃:大人(中学生以上)100円 ※小学生・乳幼児・障害者手帳保持者及び介助者1人まで無料</p>	<p>利便性向上策として、平成25年10月より印西牧の原駅南口に乗り入れを行った。</p>	<p style="text-align: center;">A</p> <p>印旛支所や日本医大千葉北総病院が立地する印旛日本医大駅エリアと、住宅が集積し大規模な商業施設が立地する印西牧の原駅周辺エリアを結び、荒野・竜腹寺地区を経由することにより、公共交通不便地域の解消を図る。</p>	<p style="text-align: center;">B</p> <p>結果:1日 33.87人 ・利便性向上の観点から印西牧の原駅南口に乗り入れを行ったが、平成25年度目標人数50人には及ばなかった。 ・公共交通不便地域(竜腹寺、荒野)での利用はあり、公共交通不便地域の解消が図れた。</p>	<p>目標利用者数を下回った要因としては、ルート延伸に伴う減便が考えられる。今後、増便などの利用促進策を図っていく必要がある。</p>

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名：東金市地域公共交通会議

評価対象事業名：陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>【事業者名】 東金タクシー有限会社 【運行系統名】 ○公平・丘山・源・正気 (平成25年10月から平成26年1月まで) ○公平・丘山・源・正気・大和 (平成26年2月から平成26年3月まで) ○市内全域 (平成26年4月から)</p>	<p>【運行区域】 市内全域</p>	<p>計画・定量的な目標数値については、運行実績・予測に基づいて、事業実施期間中(平成26年12月)に変更を行った。 新たな利用促進策として、東金市マスコットキャラクターを活用した「運行車両用マグネットシート」、「のぼり旗」、「乗降場標識」を設置した。</p>	<p>計画どおり事業は適切に実施された。  当初予定していた利用者数に満たないといった課題を踏まえ、運行車両の最大限の有効活用を図るため、運行地域を一部拡大した。また、課題把握や利用促進の一助とするため、アンケート調査を実施した。</p>	<p>【当初目標数値】 1日当たり利用者数 ・平成25年10月から平成26年3月まで 22人 ・平成26年4月から平成26年6月まで 67人 ・平成26年7月から平成26年9月まで 88人  【変更目標数値】(平成26年12月) ※運行地域拡大・運行車両台数変更・運賃変更 1日当たり利用者数 ・平成25年10月から平成26年3月まで 25人 ・平成26年4月から平成26年6月まで 50人 ・平成26年7月から平成26年9月まで 63人  【結果】 1日当たり利用者数 ・平成25年10月から平成26年3月まで 22人 ・平成26年4月から平成26年6月まで 35人 ・平成26年7月から平成26年9月まで 40人  利用者数は増加してきているものの、目標数値は達成することができなかった。 ・乗合率が低調である。 ・利用者の多くは高齢者であり、特に最初の利用に不安を感じている。 ・利用時間の2時間前までの予約に不便を感じている。  公共交通不便地域の解消、東千葉メディカルセンター(平成26年4月開院)への交通アクセスの確保により、利便性の向上が図られた。</p>	<p>平成26年4月から市内全域での運行を開始した。引き続き広報紙掲載、行政無線、行政区説明会等による周知の機会を活用し、新規利用者や団体利用者の取り込みにも重点を置いた利用促進策を講じていく。 アンケート調査等を活用して、サービス水準を再検証し、公共交通のひとつとしての位置づけを明確にするとともに、利用しやすい交通体系を整備していく。曜日・時間帯によって利用が集中した場合は、一時的な増便措置を検討し、弾力的な運行体制を構築していく。</p>
<p>【事業者名】 南総タクシー株式会社 【運行系統名】 ○公平・丘山・源・正気 (平成25年10月から平成26年1月まで) ○公平・丘山・源・正気・大和 (平成26年2月から平成26年3月まで) ○市内全域 (平成26年4月から)</p>					
<p>【事業者名】 関口タクシー有限会社 【運行系統名】 ○公平・丘山・源・正気 (平成25年10月から平成26年1月まで) ○公平・丘山・源・正気・大和 (平成26年2月から平成26年3月まで) ○市内全域 (平成26年4月から)</p>					
<p>【事業者名】 小川タクシー有限会社 【運行系統名】 ○公平・丘山・源・正気 (平成25年10月から平成26年1月まで) ○公平・丘山・源・正気・大和 (平成26年2月から平成26年3月まで) ○市内全域 (平成26年4月から)</p>					

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名:長南町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者名:(有)長南タクシー 運行系統名:町内全域	長南町全域でドア・ツー・ドア方式	前年度の評価結果を踏まえ、着実に事業を実施している。	A	計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	A ・計画年3,660回に対し、4,568回運行し、延べ5,315人の交通手段の確保ができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業を活用し、公共交通空白地域の解消、幹線への接続が出来る交通手段として継続していく。</li> <li>・郵送により利用案内を配布したり、積極的に利用促進を図っている。今後も継続してPRをしていく。</li> </ul>
事業者名:ゆたか自動車(株) 運行系統名:町内全域	長南町全域でドア・ツー・ドア方式	前年度から利用が増えている事を踏まえ、着実に事業を実施している。	A	計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B ・計画年3,660回に対し、2,164回運行となっているが、前年度から約30%の増となり、延べ2,395人の交通手段の確保ができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業を活用し、公共交通空白地域の解消、幹線への接続が出来る交通手段として継続していく。</li> </ul>



# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名: 檜原村地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
大谷商事(有) 運行系統名: 神戸線	神戸園入口～郷土資料館	利用促進策として路線バスの通学利用やシルバーパスでの利用等の実態について定量的に把握するとともに移動制約者の外出・交通ニーズを把握・分析し、運行システムやサービス水準の改善等を図り、需要(利用)を開発してバス交通を活性化することを目標とした	B 過去に例のない積雪による災害により運行できない期間があったが、事業は概ね適切に実施された。・地域一体となった取組みを通じて利用者促進を図っているが、少子・高齢化により人口が減少、平成26年9月末での利用者数は1日平均17.7人であり、全体に減少している。地域住民にとって重要な交通機関であり、村内公共交通の見直し、改善を図りながら、来年度以降も継続していきたい。	B 1日平均利用者数は、17.7人(対前年度比18.4%減)1本当たりの乗車目標は2人に対して1.7人となったが、児童・生徒数の減による通学利用の減少によるものである。利用者数は減少しているが、地域住民の通院、通学、買い物等、日常生活に必要な地域内交通移動を維持し、地域を活性化させる目標については充足されており、幹線へ接続できる交通手段の確保ができた。	・維持可能な公共交通とするためには、地域住民の自主的・積極的な利用が不可欠であり、今後も利用促進に係る啓発等を推進していくとともに、より一層の環境整備を行う。・村内公共交通の見直し、改善を実施する。
(有)横川交通 運行系統名: 藤倉線	上白岩～藤倉バス停	利用促進策として路線バスの通学利用やシルバーパスでの利用等の実態について定量的に把握するとともに移動制約者の外出・交通ニーズを把握・分析し、運行システムやサービス水準の改善等を図り、需要(利用)を開発してバス交通を活性化することを目標とした	B 過去に例のない積雪による災害により運行できない期間があったが、事業は概ね適切に実施された。・地域一体となった取組みを通じて利用者促進を図っているが、少子・高齢化により人口が減少、平成26年9月末での利用者数は1日平均5.0人であるが全体に減少している。地域住民にとって重要な交通機関であり、村内公共交通の見直し、改善を図りながら、来年度以降も継続していきたい。	B 1日平均利用者数は、5.0人(対前年度比47.9%減)1本当たりの乗車目標は1.3人に対して0.48人となったが、児童・生徒数の減による通学利用の減少によるものである。利用者数は減少しているが、地域住民の通院、通学、買い物等、日常生活に必要な地域内交通移動を維持し、地域を活性化させる目標は充足されており、幹線へ接続できる交通手段の確保ができた。	・維持可能な公共交通とするためには、地域住民の自主的・積極的な利用が不可欠であり、今後も利用促進に係る啓発等を推進していくとともに、より一層の環境整備を行う。・村内公共交通の見直し、改善を実施する。



# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名: 上地区公共交通協議会

評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
株式会社愛鶴	<p>【湯の沢線】 ● 渋沢駅北口～湯の沢終点(4.8km) ・ 平日: 渋沢駅発8便、湯の沢終点発11便</p> <p>【みくるべ線】 ● 渋沢駅北口→みくるべ自治会館(6.5km) ・ 平日: 4便 ・ 土曜日: 3便 ● 東耕地→渋沢駅北口(4.6km) ・ 平日: 4便 ・ 土曜日: 2便 ● 渋沢駅北口～上公民館前(2.8km) ・ 平日: 渋沢駅発2便 ・ 土曜日: 渋沢駅発2便、上公民館発3便 ● みくるべ榎戸→渋沢駅北口(6.8km) ・ 平日: 1便 ・ 土曜日: 1便</p> <p>【柳川・八沢線】 ● 渋沢駅北口～八沢沢ノ下(5.3km) ・ 平日: 渋沢駅発3便、八沢沢ノ下発4便</p>	<p>平成23年10月3日より実証運行を開始した上地区乗合自動車(愛称: 行け行けぼくらのかみちゃん)は、利用状況や運行上の問題を踏まえ、地域住民で組織する上地区公共交通協議会での協議を重ねながら、平日の実証運行を継続してきた。地域からの要望が高かった土曜日実証運行を平成25年10月から開始した。また、児童の利用促進を図るため、学校長期休業期間に合わせて、小児運賃割引を導入した。平成26年10月には、本格運行への移行とともに、乗車密度を向上させるため、平成24年6月に続いてダイヤ改正を行った。</p>	<p>平成24年6月のダイヤ改正に基づく平日運行を適切に実施した。地域からの要望が高く、上地区活性化計画に位置付けられた土曜日実証運行については、上地区公共交通協議会を中心に検討を進め、廃止された路線バスの運行実績において、平日と土曜日の利用者数の差が最も少なかったみくるべ線を対象に、通院、買い物等の利用を想定したダイヤ設定のもと実証運行を実施した。また、子供たちが学校長期休業期間での社会体験や自然体験に、上地区乗合自動車を利用しやすいよう、小児運賃を半額の50円とした。</p>	<p>上地区乗合自動車を持続可能なものとするため、上地区公共交通協議会において、継続要件: 2.4人/便以上(人件費を運賃収入で賄う)、継続目標: 4.7人/便以上(運行前の路線バスの実績)、自立運行目標: 5.9人/便以上(運行経費を運賃収入で賄う)を定めている。平成26年度(平成25年10月～平成26年9月)の平日の運行実績は3.25人/便であり、継続目標には至らなかったが継続要件を達成できた。また、土曜日運行の実績は、2.02人/便で、継続要件を達成することができなかった。小児運賃割引の結果、割引実施期間において延べ59人の子供たちの利用を得ることができた。</p>	<p>平日運行については、今後の本格運行に向けて、上地区公共交通協議会を中心に改善策の検討を進め、継続目標の達成を目指していく。土曜日運行については、継続要件を満たす利用者数が得られず、平日運行と比較しても利用が顕著に少ない状況であるため、9月末をもって運行を終了した。小児運賃については、実施期間中において、延べ59人の子供たちの利用が得られていることから、引き続き割引を実施する。また、運行事業者との調整のもと、本事業以外の路線においてもダイヤ改正や乗務員体制の効率化を図るなど、乗合タクシー事業全体における収支改善を図ることにより、持続可能な運行に向けた基盤づくりに取り組む。さらに、収支率向上を目指して、広告収入や地域住民からの協力金など運賃以外の収入源の確保も検討していく。</p>

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名: 中井町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
株式会社湘南神奈交バス	<p>運行系統名:中井町オンデマンドバス(通称:中井ふれあいバス)</p> <p>運行区域:中井町内全域(乗降ポイント120箇所)と町外4箇所を対象としたデマンド型交通システム(区間運行型)</p>	<p>公共交通空白地域の解消だけでなく、町全体の魅力を高め、定住・交流を促進するまちづくりのツールとして、平成25年1月10日から実証運行している中井町オンデマンドバスについて、地域の需要に合致した運行サービスの見直し・改善(運行エリアや乗降ポイント、予約方法等)を重ね、持続可能な地域公共交通システムとなるよう見直しを行っていく計画となっている。</p>	<p>A 平成25年11月に運行内容を見直し経過検証を行った。利用の少なかった土日祝日の運行休止、平日の車両実働時間の拡大により予約不調は減少傾向となった。また予約受付期間の拡大により、拡大期間の予約が約15%超となり潜在需要が証明された。これらにより、利用の拡大に繋がっている。イベントでは事業PR等啓発も実施し、計画通り事業は適切に実施された。</p>	<p>B 平成26年度(平成26年9月末現在)の利用者数は、25.1人/日となった。平成26年12月末時点では、32.0人/日まで伸びていることから、事業は着実に定着してきており、当初目標とした25人/日以上を上回っている。平成26年度(平成26年9月末現在)の登録者数は、2,311人(達成率96.3%)で、平成26年度の目標とした2,400人に、わずかに達成できなかった。</p>	<p>リピーターは徐々に増加しているが、新規登録・利用者の利用が鈍化していることから、引き続き登録・予約等の抵抗を軽減させるため、周知活動を継続的に行ない、以前より町民にニーズが高い鉄道駅への乗入れや生活スタイルに合わせた運行等、今後も利用状況の検証や町民の利用ニーズの把握を行いながら、近隣自治体等関連機関との連携も模索し、より利用される運行計画の検討を進める。</p>

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名: 都留市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者名: 富士急山梨バス株式会社 運行系統名: 市内循環線	谷村・三吉地域	昨年度達成状況(25人/日)に比べ、順調に利用者が増えているため、経過を見守った。	A 平成26年2月については、大雪により運行できない期間があったが、それ以外は計画どおり適切に実施された。  運休期間 14日右回り3便より運休 23日右回り1便より再開	B 平成25年度目標39人/日に対して、31人/日であった。(目標 H25:39人/日、H26:42人/日、H27:45人/日)	継続的に利用する人が固定化してきたため、利用状況が好調な便は維持し、低調な便については、時刻表や路線再編の検討を行う。
事業者名: 富士急山梨ハイヤー株式会社 運行系統名: 東桂線	東桂地域	デマンドタクシーの説明会を開催し、事業の周知を図った。路線不定期運行から区域運行に変更し、利便性の向上を図った。	A 平成26年2月については、大雪により運行できない期間があったが、それ以外は計画どおり適切に実施された。  運休期間 15日1便より運休 21日1便より再開	C 平成25年度目標2.2人/台に対して、1.2人/台であった。(目標 H25:2.2人/台、H26:2.3人/台、H27:2.5人/台)	引き続き周知活動を行い、事業の認知度を高めていく。
事業者名: 富士急山梨ハイヤー株式会社 運行系統名: 盛里線	盛里地域	路線不定期運行から区域運行に変更し、利便性の向上を図った。	A 平成26年2月については、大雪により運行できない期間があったが、それ以外は計画どおり適切に実施された。  運休期間 15日1便より運休 21日1便より再開	B 平成25年度目標2.2人/台に対して、1.6人/台であった。(目標 H25:2.2人/台、H26:2.3人/台、H27:2.5人/台)	継続的に利用する人が固定化してきたため、利用状況が好調な便は維持し、低調な便については、時刻表や路線再編の検討を行う。

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名: 中央市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域公共交通確保維持事業

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
山交タウンコーチ(株) 中央市役所田富庁舎～シルクふれんどりい線	中央市役所田富庁舎～中央市役所玉穂庁舎～山梨大学医学部付属病院～中央市役所豊富庁舎～シルクふれんどりい間を運行	利用者増を目指し昨年度以上に啓発事業を行い利用者の促進した。	A 計画とおりに事業は適切に実施された。	B 目標値である年間利用者数10,000人に対し8,453人であるが、市内を広域的に結び付け、買い物・病院の通院等の移動手段として、またJR・その他路線バスへの接続する交通手段として確立できた。	目標値の年間利用者数は下回ったものの、高齢者等の交通弱者の移動手段等としての利用性を考慮し今後も継続し運行することとしたい。利用率の向上に向けてはコミュニティバスの愛称募集等、市民により愛着をもっていただく等の効果的な啓発活動を行い、今後の利用者増加につなげていきたい。

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名: 笛吹市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>事業者名:山梨第一交通(株) 運行系統名:笛吹市デマンドタクシーみさかルート</p>	<p>御坂町若宮地区(旧若宮公民館)～石和町駅前地区(JR石和温泉駅)</p>	<p>・平成25年4月1日より、一日8便(4往復)から一日10便(5往復)に増便、停留所の数を2箇所増やした。</p>	<p>A</p> <p>●計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。</p> <p>・H26.2.14大雪の影響で2日間運休を余儀なくされたほかは欠便や大きな遅延もなく、運行計画に沿った適切な事業が行われた。</p> <p>・利用者数も目標を上回るペースで伸びており、利用登録者数は順調に伸びていることから、交通空白地域における高齢者などの日常生活に必要な移動手段の確保という点では効果を得ている。</p> <p>・石和温泉駅利用者が全体の16%を占めることから、幹線系統へのアクセス向上等による広域的な移動を可能にしたという点で成果を得ている。</p>	<p>B</p> <p>■1日当たり乗車人数 目標16.2人に対し16.6人 乗車人数については、既に目標値を上回っており目標を達成できる見込み。H25.4月に運行便数の増便と停留所の増設を行った成果が現れるとともに、これまでの利用促進に向けた取組みや口コミ等により利用の輪が広がってきたものと考えられる。</p> <p>■収支率(運賃収入/運行経費) 目標18.3%に対し14.5%</p>	<p>・地域住民への周知については、あらゆる広報媒体を活用したり、地域へ出向いて説明を行うなど、継続的な利用促進と利用者増に努めたい。</p> <p>・今後も引き続き利用実態に注視し、デマンド型交通という小回りのきいた運行形態の利点を活かして、利用ニーズに沿った効果的な運行と必要な改善を図っていく必要がある。</p>
<p>事業者名:日之出観光自動車(株) 運行系統名:笛吹市デマンドタクシーふじみルート</p>	<p>石和町富士見地区(河内公民館)～石和町駅前地区(JR石和温泉駅)</p>	<p>・平成25年4月1日より、一日8便(4往復)から一日10便(5往復)に増便、停留所の数を2箇所増やした。</p>	<p>B</p> <p>●計画に位置付けられた事業は適切に実施されている。</p> <p>・H26.2.14大雪の影響で2日間運休を余儀なくされたほかは欠便や大きな遅延もなく、運行計画に沿った適切な事業が行われた。</p> <p>・利用目標には到達しないものの、利用登録者数は順調に伸びていることから、交通空白地域における高齢者などの日常生活に必要な移動手段の確保という点では効果を得ている。</p> <p>・石和温泉駅利用者が全体の22%を占めることから、幹線系統へのアクセス向上等による広域的な移動を可能にしたという点で成果を得ている。</p>	<p>B</p> <p>■1日当たり乗車人数 目標12.0人に対し7.7人 乗車人数については、目標値に届いていない。H25.4月に運行便数の増便と停留所の増設を行ったものの、さらに利用状況の検証と利用ニーズに沿った運行内容見直しが必要</p> <p>■収支率(運賃収入/運行経費) 目標12.6%に対し8.0% 目標値に届かない見込み。利用人数低迷の影響を直接受けた形</p>	<p>・石和地域全体を1台の車両がカバーする必要上、定時定路線型の運行スタイルでは複雑なルート設定にならざるを得ず、これらが利用促進を妨げている可能性がある。しかし、タクシー事業者との協調による公共交通の維持改善を図る前提の中では、フルデマンド化は想定しておらず、今後は、高齢者が利用する公共施設への乗り入れや隣接する高齢化率の高い地域へのエリア拡大を図っていく必要がある。</p> <p>・地域住民への周知については、あらゆる広報媒体を活用したり、地域へ出向いて説明を行うなど、継続的な利用促進と利用者増に努めたい。</p>

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名: 上野原市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
有限会社 駅前タクシー	第1地域(桐原方面)	<p>※初めての事業評価となるため、実証運行時の主な課題等を踏まえ計画に反映した内容を記載</p> <p>◆道路運送法の第21条許可から第4条許可へ</p> <p>◆「大人:500円、小児:250円、幼児・乳児:無料」の運賃に、同一地域内での移動や各地域と中心市街地間の移動のうち近距離移動について、「大人:300円、小児:150円」の運賃を追加導入</p> <p>◆停留所を追加設置</p> <p>◆運行車両について、運転手を除く乗車定員4名以下のセダン型の運行車両のみから、運転手を除く乗車定員9名以下のワゴン型車両も運行可能に</p>	◆利用者数:1,780人/年 :7.57人/日	C	<p>◆交通弱者の移手段確保等のため、今後も市の財政負担を抑制しつつ、効率的かつ持続可能な公共交通の確保・維持に取り組んでいく必要があるが、実証運行開始後、第1地域及び第4地域では2年、第2地域及び第3地域では1年が経過し、利用登録数も微増の状況となっている。そのため、利用者数の大幅な増加は、難しくなってきたものと考えている。よって、目標値の設定にあたっては、平成27年度の利用者動向も注視しながら、増加率を抑えた設定としたい。【平成27年度は増加率を105%に設定済】</p> <p>◆現在進行中の上野原駅周辺の整備に伴い、今後、市内の路線バスの発着の起終点が上野原駅北口から南口に移転する予定となっている。その移転時に、市内の路線バスとデマンドタクシーの再々編が可能となるよう、協議会事務局と運行事業者の定例会をはじめ、その他の関係者とも協議を行う中で具体案を検討していきたい。</p>
有限会社 島田交通	第1地域(西原方面)		◆利用者数:3,122人/年 :13.29人/日	A	
上野原タクシー 株式会社	第2地域(大鶴・甲東方面)		◆利用者数:3,805人/年 :16.19人/日	A	
有限会社 四方津交通	第3地域(大目・巖方面)		◆利用者数:3,134人/年 :13.34人/日	A	
富士急山梨バス 株式会社	第4地域(島田・秋山方面)		◆利用者数:3,362人/年 :14.31人/日	A	
				<p>【目標】</p> <p>◆平均利用者数/日を実証運行時の120%に</p> <p>【達成状況】</p> <p>◆平均利用者数/日は、第2地域(大鶴・甲東方面)を除き増加したが、目標達成に至ったのは第1地域(西原方面)のみ</p> <p>○第1(桐原) 107.7%</p> <p>○第1(西原) 127.5%</p> <p>○第2(大鶴・甲東) 98.3%</p> <p>○第3(大目・巖) 117.9%</p> <p>○第4(島田・秋山) 111.9%</p> <p>○全系統合計 111.5%</p> <p>【分析】</p> <p>◆利用者数は、前年度と比し、中心市街地に向かう奇数便が1.31人/日の増加となったが、帰宅に利用される偶数便が0.73人/日の減少となった。その要因として、利用者の9割が60歳以上の高齢者で、通院に利用する率が高いが、一部薬局が無料での帰宅支援サービスを開始したことによるところが大きいと考えられる。(偶数便の市立病院からの乗車数は、前年度日で1.82人/日の減少)</p>	

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名: 甲州市地域公共交通会議

評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
甲州タクシー(株)	平成25年10月～平成26年3月は玉宮、神金・大藤、奥野田区域を運行し、平成26年4月～9月は松里、奥野田、市街区域を運行。	前回の評価結果を受け、利用者人数の集計だけでなく、利用バス停や時間帯、利用日をデータを基に分析し区域別の移動目的を明確にすることとした。また、デマンド交通の利用方法を記載したポスターや地域CATVを活用し利用者へ再度周知するとともに新規登録者の確保を図った。	A 生活交通ネットワーク計画に基づく事業が適切に実施された。	B (H25.10～H26.3) 【区域】 【目標】 【実績】 玉宮区域 16.8人/日 19.3人/日 神金大藤区域 18.6人/日 17.8人/日 奥野田区域 19.5人/日 19.1人/日 (H26.4～H26.9) 松里区域 20.8人/日 19.5人/日 奥野田区域 19.5人/日 18.2人/日 市 街地区域 23.2人/日 21.1人/日	今後もバス停の設置場所の見直し等、利用者の視点から利便性の向上について再検討する。各区域ごとに運行状況を分析し、利用者の多いバス停は乗換可能なバス停に設定するなど、今後も引き続き利用実態を注視していく。持続性のある事業にしていくため、他の公共交通事業との利便性を比較し、利用料金を見直す。路線バスの運行時間帯を考慮しデマンド交通の運行時間や運転手の休憩時間を調整し、利用者が利用しやすい環境を作る。
塩山タクシー(株)	平成25年10月～平成26年3月は松里、市街区域を運行し、平成26年4月～9月は玉宮、神金・大藤区域を運行。	前回の評価結果を受け、利用者人数の集計だけでなく、利用バス停や時間帯、利用日をデータを基に分析し区域別の移動目的を明確にすることとした。また、デマンド交通の利用方法を記載したポスターや地域CATVを活用し利用者へ再度周知するとともに新規登録者の確保を図った。	A 生活交通ネットワーク計画に基づく事業が適切に実施された。	B (H25.10～H26.3) 【区域】 【目標】 【実績】 松里区域 20.8人/日 19.6人/日 市 街地区域 23.2人/日 18.5人/日 (H26.4～H26.9) 玉宮区域 16.8人/日 19.9人/日 神金大藤区域 18.6人/日 18.6人/日	今後もバス停の設置場所の見直し等、利用者の視点から利便性の向上について再検討する。各区域ごとに運行状況を分析し、利用者の多いバス停は乗換可能なバス停に設定するなど、今後も引き続き利用実態を注視していく。持続性のある事業にしていくため、他の公共交通事業との利便性を比較し、利用料金を見直す。路線バスの運行時間帯を考慮しデマンド交通の運行時間や運転手の休憩時間を調整し、利用者が利用しやすい環境を作る。

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名: 富士川町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域公共交通確保維持改善事業

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
(有)青柳タクシー 平林エリア(乗合バス型)	「平林～青柳町」を運行	事業は適切に実施され、利用者数は増加している。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 満足度【アンケートによる】: 目標80%に対し71%であった。理由:区域内運行について、事前の予約が必要な事と、運行時間の間隔が長いとの意見が一部あった。利用実績:目標60人/日に対して、61人/日であった。利用実績については、目標を達成したと言える。	乗合バス型については、ほぼ計画どおり運用され、利用者の満足度も良好である。引き続き利用実績の向上のため地域の意見を聞き取り組んで行きたい。
(有)青柳タクシー 平林エリア(デマンド型)	旧増穂町エリア(平林方面)を運行	事業は適切に実施され、利用者数は増加している。	A 利用者の状況を考慮し運行形態を設定しているため、事業は適正に実施されている。		エリアの広さを考えると、現在の運行本数は適切であり、時間間隔については運用でカバーしていきたい。また、地域の要望を踏まえ運行形態の見直しについて検討していく。
(有)豊栄タクシー 小室エリア(乗合バス型)	「小室～青柳町」を運行	事業は適切に実施され、利用者数は増加している。	A 計画どおり事業は適切に実施された。		乗合バス型については、ほぼ計画どおり運用され、利用者の満足度も良好である。引き続き利用実績の向上のため地域の意見を聞き取り組んで行きたい。
(有)豊栄タクシー 小室エリア(デマンド型)	旧増穂町エリア(小室方面)を運行	事業は適切に実施され、利用者数は増加している。	A 利用者の状況を考慮し運行形態を設定しているため、事業は適正に実施されている。		エリアの広さを考えると、現在の運行本数は適切であり、時間間隔については運用でカバーしていきたい。また、地域の要望を踏まえ運行形態の見直しについて検討していく。
(有)鯉沢タクシー 十谷エリア(デマンド型)	旧鯉沢町エリア(十谷方面)を運行	事業は適切に実施され、利用者数は増加している。	A 利用者の状況を考慮し運行形態を設定しているため、事業は適正に実施されている。		地域の要望を踏まえ運行形態の見直しについて検討していく。



# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

協議会名: 身延町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>山交タウンコーチ(株)                      (株)身延タクシー                      (有)中富タクシー</p>	<p>・運行区域                      身延地区                      下部地区                      中富地区                      一部町外(市川三郷町岩間)</p>	<p>前回、未達成の項目を中心に目標を設定</p>	<p>A 計画通り、適切に実施された。</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バス路線の見直し                              目標:7路線                              結果:7路線                              運行本数・運行路線等を検討し、変更予定</li> <li>・公共交通経費の削減                              目標:80,000千円                              結果:66,545千円</li> <li>・乗合タクシーの1台追加                              目標:5台                              結果:4台                              他の公共交通との調整し、H27年度から追加予定</li> <li>・利用者満足度の向上                              目標:85%                              未運行エリアの解消、エリアの見直し等を随時行い満足度向上を図っている。また、住民への広報等を充実させ運行目的、利用方法等を周知している。</li> <li>・回数券の作成                              作成済み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間路線バス、町営バス等と連携し、より利用しやすい公共交通を目指す必要がある。</li> <li>・住民に運行目的、利用方法等を理解してもらため、広報等を充実させる必要がある。</li> <li>・より利用しやすく、地域にあった公共交通をめざし、整備を進めていく。</li> </ul>

## 平成26年度地域公共交通調査事業一覧

都県	協議会名
茨城県	筑西市地域公共交通会議
	城里町新交通システム運行委員会
千葉県	鴨川市地域公共交通活性化協議会
	南房総市地域公共交通活性化協議会
神奈川県	真鶴町地域公共交通会議
埼玉県	東秩父村地域公共交通活性化協議会

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通調査事業等)

協議会名: 筑西市地域公共交通会議

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通ネットワーク計画又は地域公共交通再編実施計画等の計画策定に向けた方針
<p>既存の統計調査におけるデータ、これまでのデマンドタクシー運行によって蓄積されたデータの調査・分析を行うとともに、市民を対象としたアンケートや関係者に対するヒアリングを行い、市民の詳細な移動特性や公共交通に対する意向のほか、本市における移動手段の整備状況を把握し、計画策定に必要な調査・分析を行った。</p> <p>今後、当該調査・分析結果を踏まえ、協議会(筑西市地域公共交通会議)において、引き続き、今後予想される人口減少や高齢化を見据え、効率性と利便性の向上を図りつつ、将来にわたり持続可能な公共交通体系を再構築するための方策を協議・検討する。</p>	<p>A</p> <p>計画どおり事業は適切に実施されている。</p>	<p>次年度以降、今般の調査事業を踏まえ策定する「筑西市地域公共交通網形成計画」に基づき、効率性と利便性の向上を図りつつ、将来にわたり持続可能な公共交通体系を再構築するため、交通事業者、行政関係部局、関係団体等と協議を行い、生活交通ネットワーク計画又は地域公共交通再編実施計画等の策定を目指す。</p>

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通調査事業等)

協議会名: 城里町新交通システム運行委員会

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③生活交通ネットワーク計画又は地域公共交通再編実施計画等の計画策定に向けた方針
城里町地域生活交通ネットワーク計画策定調査事業	A	城里町地域生活交通ネットワーク計画策定調査事業実施に向け必要な調査を実施している。	<p>&lt;補助申請を行う補助対象事業名&gt; 地域内フィーダー系統確保維持事業</p> <p>&lt;事業内容&gt; 町内交通不便地域(七会地区)の現況の調査把握を行い、路線バスの実証調査運行実施する。</p> <p>&lt;実施時期&gt; 平成26年11月20日～平成27年3月31日</p>

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通調査事業等)

協議会名： 鴨川市地域公共交通活性化協議会

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通ネットワーク計画又は地域公共交通再編実施計画等の計画策定に向けた方針
<p>事業内容： 以下の①から③の実施を通して、市内の公共交通に関する総合的な計画(=鴨川市地域公共交通網形成計画(案))をとりまとめる。 計画のとりまとめにあたっては、鴨川市地域公共交通活性化協議会を4回程度開催し、関係者間での合意形成を行う。</p> <p>①公共交通に関する現況調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域特性の整理</li> <li>・既存公共交通の現状把握</li> <li>・上位・関連計画における公共交通の位置づけの整理</li> </ul> <p>②意向把握アンケート調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民アンケート調査</li> <li>・主要施設利用者ヒアリング調査</li> <li>・コミュニティバス利用者ヒアリング調査</li> </ul> <p>③公共交通を取り巻く課題整理及び具体的な施策の検討</p> <p>結果概要： 上記①及び②の実施結果に基づき、上記③として、「公共交通がまちづくりの中で担うべき役割」及び「公共交通を取り巻く課題」を抽出し、地域公共交通網の形成に係る基本方針を導き出した。 また、この基本方針に基づき、計画の目標及び目標を達成するための事業を設定し、鴨川市地域公共交通網形成計画(素案)としてとりまとめた。</p>	<p>【評価を行った時点において未完了の事項】</p> <p>○協議会の開催について 協議会については、4回程度としたうちの3回の開催にとどまっている。</p> <p>○地域公共交通網形成計画(案)について 評価時点においては、パブリックコメント及び協議会としての決定が未実施である。</p> <p>【未実施の事項に関する今後の予定】</p> <p>地域公共交通網形成計画(案)については、パブリックコメントの終了後、平成27年2月中に4回目の協議会を開催し、協議会として決定することを見込みます。</p> <p style="text-align: center;">A</p>	<p>補助対象事業名： 鴨川市コミュニティバス運行業務 ※地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金)の対象化を見込む</p> <p>事業内容： 市内3路線(北ルート、清澄ルート及び南ルート)においてコミュニティバスを運行</p> <p>実施時期： 平成27年3月を目途として地域協働推進事業計画の認定を受け、現行のコミュニティバスのサービスレベルを平成27年4月から6月にかけて変更した上で、平成27年10月運行分から、地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金)の対象とすることを見込む。</p> <p>計画策定の方針： 生活交通ネットワーク計画の策定に当たっては、民間の公共交通事業者との適切な棲み分けと連携のもと、地域及び地域における公共交通の持続可能性とまちづくりの方向性等に配慮した公共交通網の形成に資する計画とすることを見込む。 具体的には、現行のコミュニティバスに対して、次のサービスレベルの変更を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通空白地域(市内内浦地区)及び市内観光関連施設(県立内浦山県民の森[平成25年度入込実績 161千人])への路線延伸(北ルート)</li> <li>・3小学校の統合により新設される新江見小学校への路線延伸によるスクールバスとしての活用(南ルート)</li> <li>・地域のニーズに合わせた、または他公共交通機関との乗り継ぎを改善するためのダイヤ改正(北ルート、南ルート及び清澄ルート)及び一部増便(清澄ルート)</li> </ul> <p>また、停留所までの移動が困難であり、タクシー事業所からも離れた地域に居住する住民への配慮から、ドア・ツー・ドアによる新たなサービスについて、導入先となる地域、実施主体及び実施手法も含め検討を行うこととしている。</p>

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通調査事業等)

協議会名:南房総市地域公共交通活性化協議会

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③生活交通ネットワーク計画又は地域公共交通再編実施計画等の計画策定に向けた方針
<p>・これまで協議会で取り組んだ実証運行や調査事業の結果を分析して南房総地域における課題の整理を行い、重点的にカバーすべき地域の検討について方向付けた。</p> <p>・地域公共交通を巡る関係者(交通事業者・利用者・観光施設など)へのヒアリングを実施するとともに、庁内においても部署横断的(観光・環境・建設・福祉・教育)に連携して取り組み、課題の解消へ向けた検討を行っている。</p>	A	<p>既存データの分析や関係者ヒアリングなどを適切に実施し、公共交通の再編に向けた計画の取りまとめを行っている。</p>	<p>合併による恩恵で拡充されている財政措置も将来的には縮小されるため、本調査を基に関係者で合意形成を図り、地域にあるあらゆるモードを活用し、持続可能で効率的な公共交通網を形成する。</p>

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通調査事業等)

協議会名:真鶴町地域公共交通会議

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通ネットワーク計画又は地域公共交通再編実施計画等の計画策定に向けた方針
<p>事業内容            以下の①～③の事業実施をとおして当町の抱える課題を抽出し、真鶴町の総合的な交通体系の基本方針(真鶴町地域公共交通網形成計画)を策定する。また、計画の策定にあたっては、地域公共交通会議を開催し、合意形成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①公共交通の現況把握</li> <li>②地域公共交通に係る住民アンケートの実施               <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティバス利用者アンケート調査</li> <li>・地域公共交通に係る住民アンケート調査</li> <li>・関係団体ヒアリング</li> </ul> </li> <li>③新たな公共交通の実証実験</li> <li>④当町の公共交通に関する課題整理</li> </ul> <p>結果概要            ①、②の事業結果に基づき、④の公共交通に関する課題を抽出することができ、今後の当町における総合的な交通体系の基本方針(案)をまとめた。            また、③の事業については現在実施中であることから、路線再編を見据えた上での貴重なデータであり、形成計画に結果を記載する。</p>	<p style="text-align: center;">A</p> <p>【評価を行った時点において未完了の事項】            ・新たな公共交通の実証実験            一次評価の時点では、実施中。(H27.2月末まで)</p> <p>【未実施の事項に関する今後の予定】            ・実証実験の結果については、形成計画にとりまとめ、新たな公共交通ネットワーク構築の参考とする。</p> <p>・地域公共交通網形成計画の策定については、3月にパブリックコメントを実施し、再度地域公共交通会議を開催し、会議にて策定の合意を得る。</p>	<p>今後策定される地域公共交通網形成計画に基づき、既存公共交通の一体的な見直しを行うため、地域公共交通再編実施計画の策定検討を平成27年度に実施し、新たな公共交通ネットワークの導入を図る。</p>

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通調査事業等)

協議会名: 東秩父村地域公共交通活性化協議会

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通ネットワーク計画又は地域公共交通再編実施計画等の計画策定に向けた方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民(村民)の移動・お出かけのニーズ調査 これまで9回の地域意見交換会を実施し、移動・お出かけの実態を把握した。また全世帯を対象とした大規模アンケートを2月中に実施予定である。</li> <li>・地域公共交通の実態データ分析 乗合バスの利用実績データ(人数)の分析について、通常データ(事業者の日報による人数)だけでなく、乗降センサーによる統計的データの分析を実施した。</li> <li>・地域公共交通網形成計画策定の基礎的データ分析 村の人口予測や施設配置、利用実態等の分析による形成計画策定のための基礎的データを分析している。</li> <li>・バス利用者の調査・観光者調査 バス利用者に対する調査については、住民(村民)については全世帯対象のアンケート調査にて兼ねることとした。また、バスを利用する来訪者及び観光客の動向調査については、バス車内設置によるアンケートを、2月中に実施予定である。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">A</p> <p style="text-align: center;">東秩父村地域公共交通網形成計画策定に向け、必要な調査を実施できている。</p>	<p>住民の日常生活機能の確保・向上と来訪者の観光需要による村内公共交通の維持確保を実現するため、施設整備を行う和紙の里を交通結節点とする公共交通ネットワークを構築する。今回収集した基礎データやアンケート等を有効に活用し、地域や来訪者の需要に合致したバス路線の統合再編等の見直しを行う。既存バス路線ではカバーできない山間部に居住する高齢者の公共交通の確保については、現在ある過疎地有償運送と公共交通の連携や確保についても検討していく。(観光地への短期デマンドも検討)</p>